使用説明書

ご使用前に
必ずお読みください。

お買い上げありがとうございます。

本機は、αシリーズ、α-iシリーズで培ったオートフォーカス、分割測光などの技術をさらに発展させると共に、撮影者の思いどおりの写真が撮れるように新たな技術と理論も導入し、出来上がった写真を楽しむだけでなく、撮影する楽しさも再発見していただけるオートフォーカス一眼レフカメラです。

- このカメラの機能を充分に活用していただくためにも、本使用説明書をご使用前にお読みください。
  また、お出かけの際には、カメラと一緒にお持ちになれば便利です。
- お読みになった後は、保証書、アフターサービスのご案内とともに大切に保管してください。
- 大切な撮影の前には、試し撮りをして機器が正常に機能することをご確認ください。
  万一、このカメラの使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

なお、本書はα-7XiクォーツデートとAFズームXi 28-105mmの組み合わせで説明していますが、すべてのミノルタαレンズが使用できます。
また文中の はこのカメラをご使用になるときのアドバイス、は注意事項です。

> ミノルタα-7Xiクォーツデートの機能を活用して頂くためには、当社独自のノウハウにより、ボディ特性に適合するように設計・製造管理されているレンズおよび付属品の使用をお勧めします。当社以外の付属品を単に装着できるということだけでお使いになる場合いかなる事象が生じるかについては予想いたしかねます。

撮影早わかり ………… 3
特長 ………… 5
標準付属品 ………… 5

はじめに

各部の名称 ………… 7
　ボディ ………… 7
　ボディ表示 ………… 9
　ファインダー表示 ………… 10
電池を入れます ………… 11
電池容量をチェックします … 12
レンズの取り付け ………… 13
レンズの取り外し ………… 14
フイルムを入れます ………… 15
フイルムの巻き戻し ………… 17
フイルム感度の設定と変更 … 18
カメラの構え方 ………… 19
ゼロタイムオート ………… 20
メインスイッチ ………… 21
シャッターボタン ………… 21

基本的な撮影

基本的な撮影 ………… 23
ズーミング ………… 26
AF補助光 ………… 27
セルフタイマー ………… 28
プログラムセットボタン … 29
日付・時間の写し込み … 30
オートフォーカスの苦手な被写体 ………… 33
写真の描写を変えるには … 34
　背景インジケーター … 35
　動感インジケーター … 37

応用的な撮影

ピントの固定 ………… 40
　フォーカスロック撮影 … 40
　フォーカスホールド ………… 41
手動によるピント合わせ … 43
撮影モード ………… 45
　P(プログラムAE)モード … 47
　　イメージシフト ………… 49
　A(絞り優先AE)モード 52
　S(シャッター速度優先AE)モード ………… 55
M(マニュアル)モード … 57
　バルブ撮影 ………… 61
　露出の警告 ………… 62
進んだフラッシュ撮影 … 63
　スローシンクロ撮影 … 63
　日中シンクロ撮影 ………… 65
　フラッシュモード ………… 67
フォーカスフレーム ………… 69
スポット測光 ………… 71
露出補正 ………… 73
AEロック撮影 ………… 75
1コマ/連続撮影 ………… 76
オートズーム機能 ………… 77
　オートスタンバイズーム … 78
　イメージサイズロック … 79
　ワイドビューファインダー ………… 81
　アドバンスプログラムズーム ………… 83

アクセサリーを使って

パノラマ撮影 ………… 85
ワイヤレスフラッシュ ………… 86
インテリジェントカード … 92
アクセサリーについて … 93

基本的な写真の知識

カメラとレンズの性質 … 96
露出 ………… 96
絞りとシャッター速度の効果 ………… 97
被写界深度 ………… 97

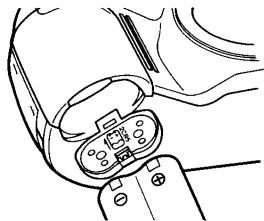
その他

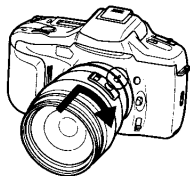
故障かな?…と考える前に ………… 99
取り扱い上の注意 ………… 101
電池に関する注意 ………… 104
主な性能 ………… 105
○○○したいときは … 107

撮影早わかり

（くわしくは23ページをご覧ください。）

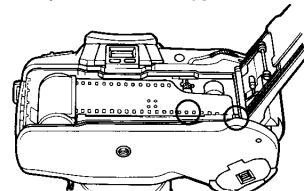
1 電池を入れます

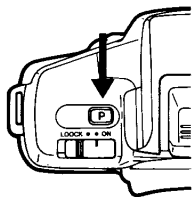
電池（2CR5 1個）を、電池室のふたの表示にしたがって入れます。

2 レンズを取り付けます

レンズの赤い指標と、ボディの指標を合わせてはめ込み、カチッとロックがかかるまで時計方向に回します。

3 AZにします

レンズのAZ/MZスイッチを、AZにします。

4 フイルムを入れます

フイルムの先端を赤い指標に合わせ、フイルムの穴と歯車を噛み合わせて裏ぶたを閉じ、メインスイッチをONにします。

5 フルオートにします

プログラムセットボタンを押します。

6 カメラを構えます

写したいものが［ ］に入るようにカメラを構えると、ピントが合います。

7 撮影します

シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

特 長

■操作が簡単

- カメラを構えただけで、撮影のための準備(ピント/露出/画角)が終了している(ゼロタイムオート)。
- 被写体の位置を気にせず撮影でき、しかも最適に制御する(ワイドフォーカスエリア&14分割ハニカムパターン測光)。

■上級者譲りのテクニックを楽しめる

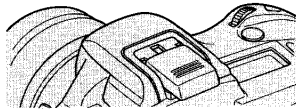
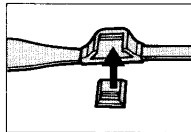
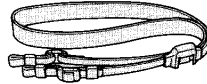
- 上級者のノウハウを満載(エキスパートプログラム)。
- 複雑な動きの被写体にも対応する(マルチ動体予測制御)。

■対話するようにカメラを使える

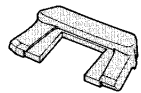
- 写真の仕上がりが予測できる(イメージインジケーター)。
- ファインダーから目を離すことなく、作画意図をカメラに伝えることができる(ファインダースクリーン表示&ダブルダイヤル)。

標準付属品

以下のものが入っています。ご確認ください。

● アクセサリーシューキャップ

図のようにストラップに収納できます。

● ネックストラップ

取り付け方

反対側も同様に取り付けます。

● アイピースカップ

- 使用説明書
- 仮保証書(アンケートカード)
  ※アンケートにご記入の上、記載の住所までお送りください。
- アフターサービスのご案内
- リチウム電池2CR5 1個

はじめに

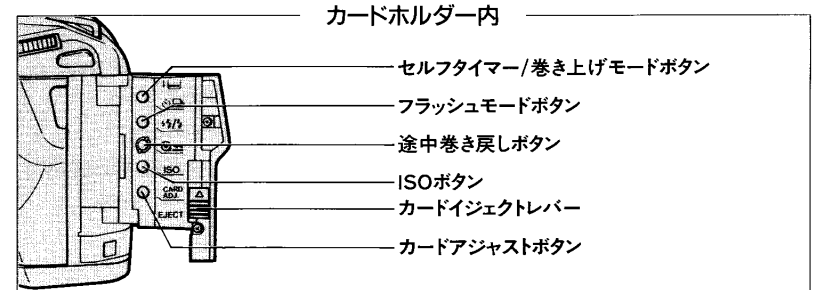
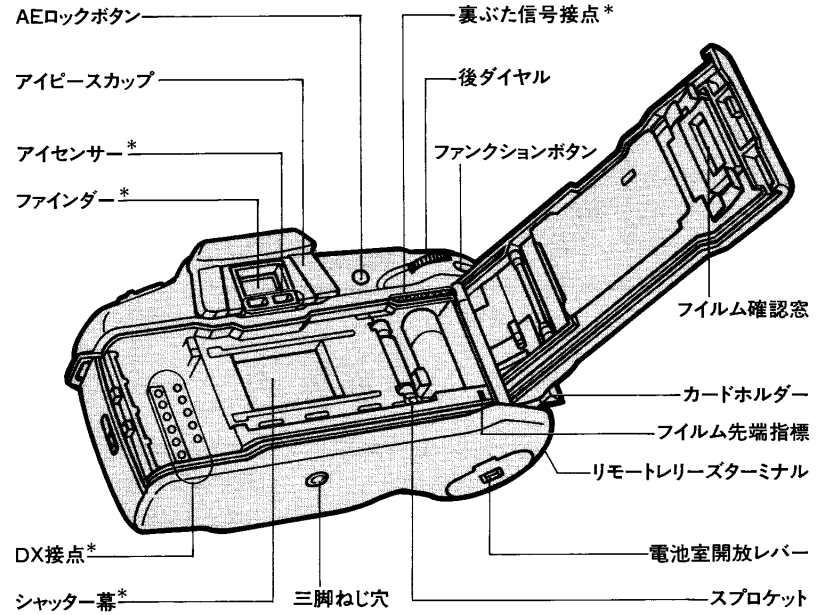
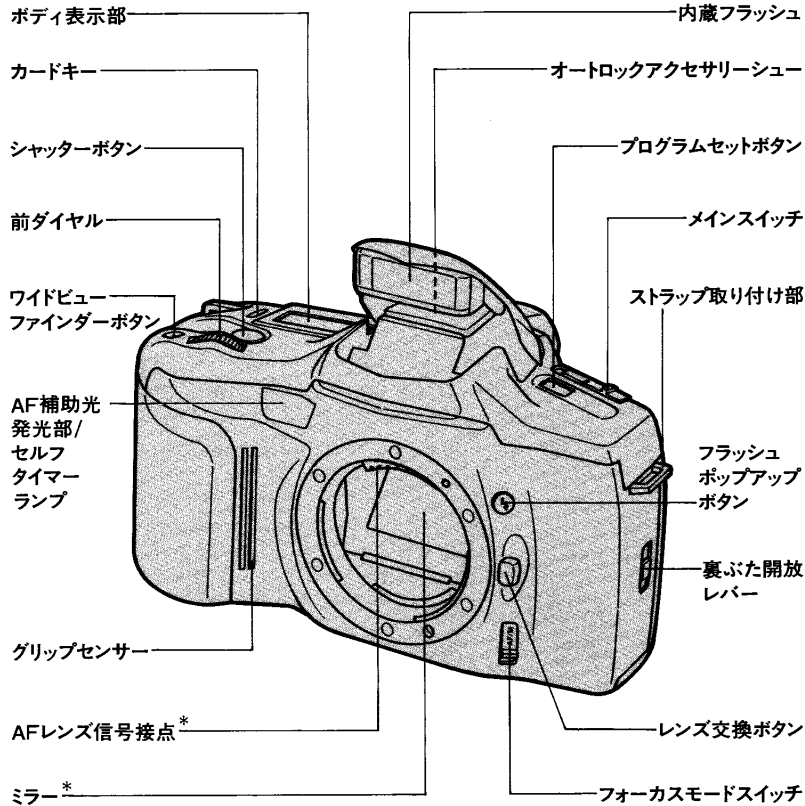
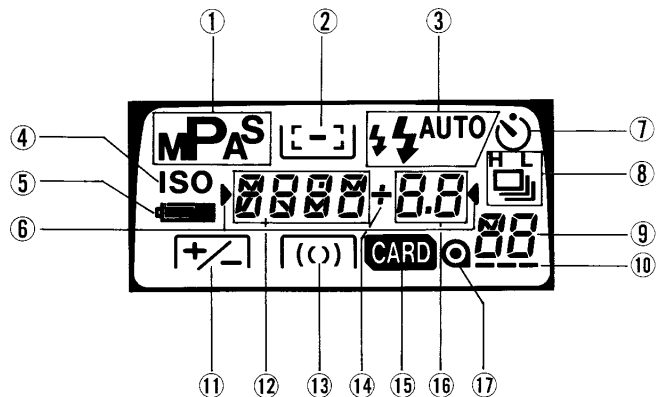
この章では撮影に入る前の準備を説明しています。

各部の名称

ボディ

＊傷つけたり、汚したりしないでください。

ボディ表示部
カードキー
シャッターボタン
前ダイヤル
ワイドビューファインダーボタン
AF補助光発光部/セルフタイマーランプ
グリップセンサー
AFレンズ信号接点＊
ミラー＊
内蔵フラッシュ
オートロックアクセサリーシュー
プログラムセットボタン
メインスイッチ
ストラップ取り付け部
フラッシュポップアップボタン
裏ぶた開放レバー
レンズ交換ボタン
フォーカスモードスイッチ

カードホルダー内

ボディ表示

①撮影モード表示

P：プログラムAE

P_A：イメージシフト

P_S：イメージシフト

A：絞り優先AE

S：シャッター速度優先AE

M：マニュアル

②フォーカスエリア表示

[ ]：ワイドフォーカスエリア

[-]：ローカルフォーカスエリア

③フラッシュモード表示

⚡AUTO：自動発光

⚡⚡AUTO：プリ発光付き自動発光

⚡：プリ発光なし発光

⚡⚡：プリ発光付き発光

OFF⚡：発光禁止

⚡⚡：ワイヤレスフラッシュ（交互に点滅します）

④ISO（フイルム感度）感度表示

⑤電池容量表示

⑥セットマーク

⑦セルフタイマーマーク

⑧巻き上げモード表示

□：1コマ撮影

：連続撮影 H

：連続撮影 L

⑨フイルムカウンター

⑩フイルムマーク

⑪露出補正表示

⑫シャッター速度/フイルム感度/ローカルフォーカスエリア表示

⑬測光方式表示

[(○)]：14分割ハニカムパターン測光

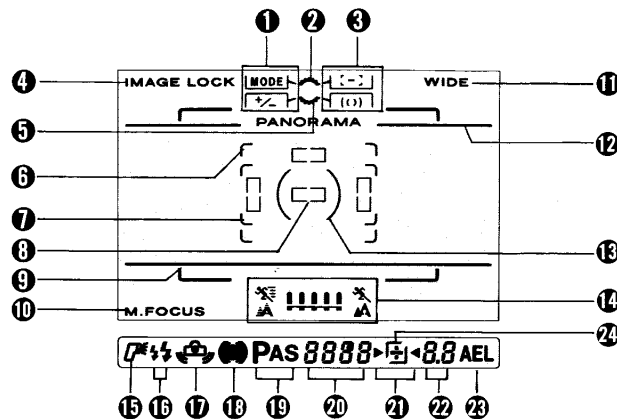
[○]：スポット測光

⑭露出補正マーク

⑮カードマーク

⑯絞り値/露出補正値表示

⑰パトローネマーク

ファインダー表示

ファインダースクリーン

❶ファンクション1表示

[MODE]：撮影モード表示

[+/-]：露出補正表示

❷前ダイヤルマーク

❸ファンクション2表示

[-]：フォーカスエリア表示

[(○)]：測光方式表示

❹イメージサイズロック表示

❺後ダイヤルマーク

❻ワイドフォーカスフレーム（カメラ横位置用）

❼ワイドフォーカスフレーム（カメラ縦位置用）

❽ローカルフォーカスフレーム

❾ワイドビューファインダー撮影画枠

❿マニュアルフォーカス表示

⓫ワイドビューファインダー表示

⓬パノラマフレーム

⓭スポット測光フレーム

⓮イメージインジケーター

：背景インジケーター

：動感インジケーター

スクリーン外表示部

⓯フラッシュ撮影表示

⓰フラッシュ充電完了/調光確認表示

⓱手ぶれ表示

⓲フォーカス表示

⓳撮影モード表示

⓴シャッター速度/フイルム感度表示

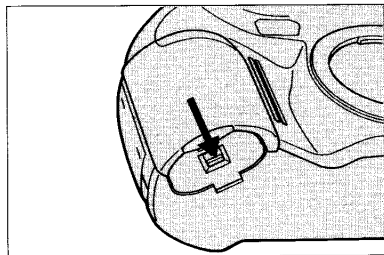
㉑メータードマニュアル表示

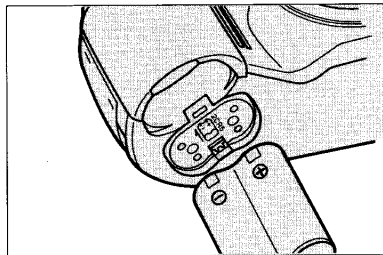
㉒絞り値/露出補正表示

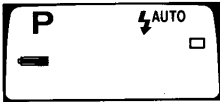
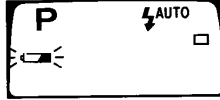
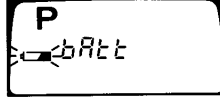
㉓AEロックマーク

㉔露出補正表示

電池を入れます

【使用する電池の種類：6Vパックリチウム電池 2CR5】

1 電池室のふたを開けます。

●電池室開放レバーを矢印の方向へ押します。

2 電池室のふたの表示にしたがって、電池を入れます。

3 電池室のふたを閉じます。

リチウム電池についての注意

●リチウム電池は低温時の特性にも優れていますが、0°C以下では電池特性がやや低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラや予備の電池を保温しながら撮影してください。なお、低温のために特性が低下した電池でも、常温に戻れば性能は回復します。
●長期間カメラを使用しないときは、電池を抜き取って保管してください。
●電池の製造後の経過期間により、新品電池でも撮影可能本数が性能表と異なる場合があります。
また長期間の旅行や、寒いところで使用するときには、予備の電池をご用意ください。

●電池は火の中へ投入したり、ショート、分解、充電は絶対にしないでください。破裂、発火のおそれがあります。

電池容量をチェックします

メインスイッチをLOCKからONにすると、カメラが電池容量をチェックし、ボディ表示部に表示します。
もしボディ表示部に何も表示されない場合は、電池の向きを確認してください。

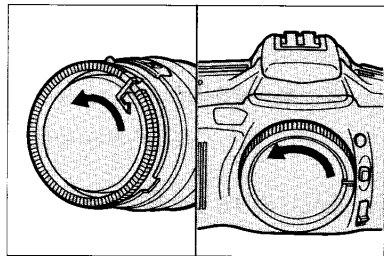
①
電池容量は充分にあります。(4秒間点灯)

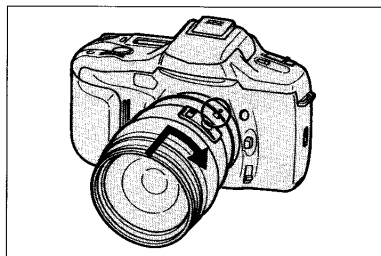
②
新しい電池を用意してください。(4秒間点灯)

③
新しい電池と交換してください。(点滅)
この状態でも、④の状態までは動きます。

④
新しい電池と交換してください。(点滅)
撮影できません。

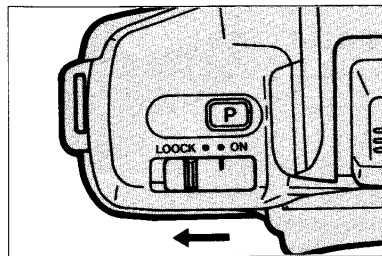
●③④は、シャッターボタンを軽く押したときも表示されます。
●④は、メインスイッチがLOCKのときも点滅します。

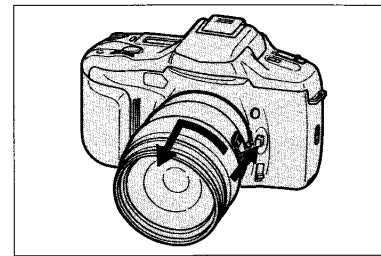
レンズの取り付け

1 ボディキャップ、レンズの後ろキャップを外します。

● 矢印の方向に回して外します。

2 レンズとカメラの赤い指標を合わせてはめ込み、カチッと音がするまで矢印方向に回します。

● レンズが正しく取り付れられていないときは、メインスイッチをONにするとファインダースクリーンに"M. FOCUS"と表示します。このときはもう一度2の操作を行なってください。

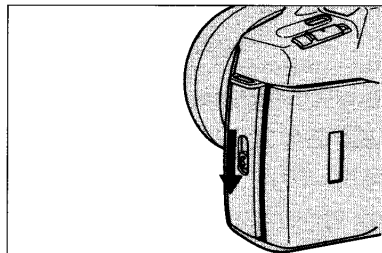
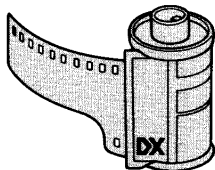
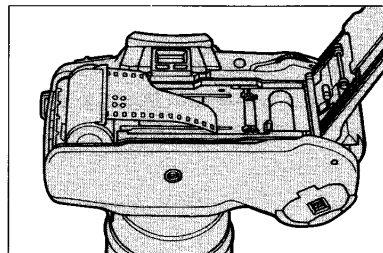
● レンズとカメラ間の交信が正しく行なわれていない状態（レンズが取り外されているときや正しく取り付けられていないとき、またはAFレンズ信号接点が汚れているときなど）では、絞り値表示が"－－"になり、フイルムが入っている場合は、誤動作を防ぐためシャッターが切れない仕組みになっています。したがって、天体望遠鏡などにカメラを取り付けたときはシャッターが切れませんので、お近くのサービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせください。

レンズの取り外し

1 メインスイッチをLOCKにします。

● AFズームXiレンズは最もコンパクトな状態になります。

2 レンズ交換ボタンを押したまま、レンズを図の方向に止まるまで回し、引き出します。

フイルムを入れます

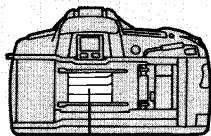
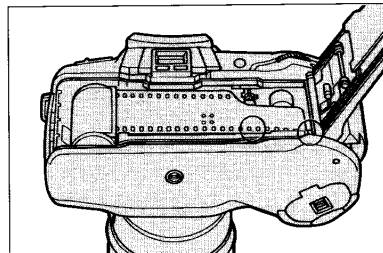
フイルム感度はDXコード付きフイルムの場合は自動的にセットされます。

● DXコードのないフイルムを使用する場合や、感度を変更して露出補正する場合は、18ページをご覧ください。

1 裏ぶた開放レバーを下げて裏ぶたを開けます。

2 フイルムを、図のように入れます。

● シャッター幕には、手やフイルムの先が触れないように注意してください。

● フイルムの出し入れは、直射日光を避けて行なってください。

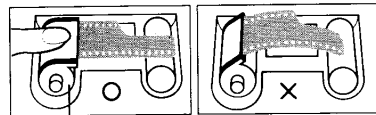
● 初めてカメラをご使用になるときは、フイルムを入れる前に裏ぶたの内側にある保護シートを取り除いてください。

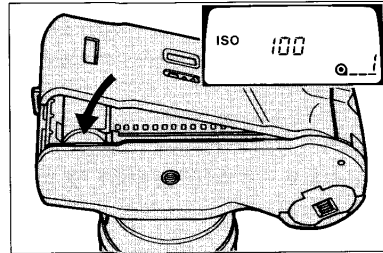
使用フイルム

ISO 6～6400のフイルムが使用できます。フラッシュ撮影の場合は、ISO 25～1000のフイルムをお使いください。72枚撮りフイルム、ポラロイドインスタントリバーサルフイルムは使用できません。

3 フイルムの先端を赤い指標に合わせ、スプロケットの歯とフイルムの穴を噛み合わせます。

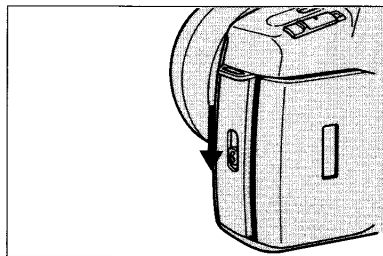
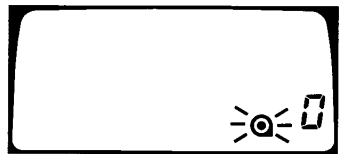
● フイルムが浮き上がらないようにパトローネを押えてください。

4 裏ぶたを閉じます。

5 メインスイッチをONにします。

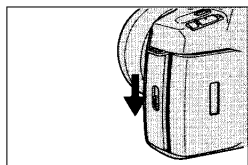
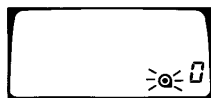
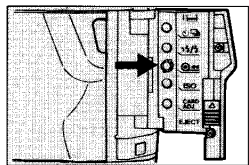
● フイルムが自動的に巻き上げられ、フイルムカウンターに"1"が表示されます。

● フイルム感度が表示されます。

● フイルムが正しく送られていない場合は、フイルムカウンターは0のまま点滅し、カメラは作動しません。このような場合は、もう一度フイルムを入れ直してください。

フイルムの巻き戻し

フイルムの最後のコマを撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。

1 フイルムカウンターが"0"になり、パトローネマークが点滅すると巻き戻し完了です。

2 裏ぶたを開けて、フイルムを取り出します。

● 裏ぶた開放レバーを押し下げて裏ぶたを開けます。

もし、フイルムを最後のコマまで撮影せずに途中で取り出すときは……

1 カードホルダー内の途中巻き戻しボタンを押します。

● 巻き戻しが始まります。

2 フイルムカウンターが"0"になり、パトローネマークが点滅したら巻き戻し完了です。

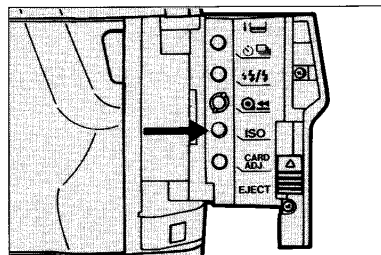
3 裏ぶたを開けて、フイルムを取り出します。

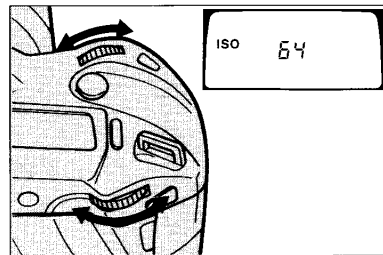
● 裏ぶた開放レバーを下げて裏ぶたを開けます。

● カスタムカードXiを使うと、巻き戻し完了時、フイルムの先端を少し残すことができます。

フイルム感度の設定と変更

このカメラは、DXコード付きフイルムの場合フイルムに付いているDXコードを読み取り、自動的にフイルム感度の設定をしますので通常は必要ありません。

もし、DXコードの付いていないフイルムやフイルム感度を変更してお使いになる場合は、以下の要領でフイルム感度の設定および変更を行なってください。

1 カードホルダー内のISOボタンを押します。

● ボディ表示部とスクリーン外表示部に今設定されているフイルム感度が表示され、設定できる状態になります。

2 前ダイヤルまたは後ダイヤルを回して、希望のフイルム感度を表示させます。

● ISOボタンをもう一度押して設定を終了します。

● 設定後4秒間操作しないと自動的に設定を終了します。

● DXコードの無いフイルムは、前回のISO感度（工場出荷時はISO100）に設定されます。

● 設定可能なフイルム感度は、ISO6～6400です。

● 撮影時でもISOボタンを押せば、フイルム感度を確認することができます。

● カスタムカードXiを使うと、DXコード付きフイルムを入れ、手動でフイルム感度を変更すると、次に同じフイルム感度のDXコード付きフイルムを入れたときも自動的にフイルム感度を前回の設定どおりに変更する機能（フイルム感度変更記憶機能）を使うことができます。

カメラの構え方

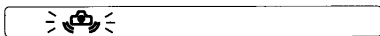
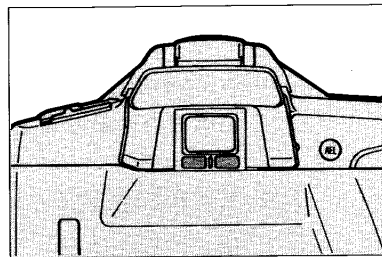
カメラが少しでも動くとぶれた写真になりやすいので、図のようにカメラをしっかりと構えてください。

横位置

縦位置

- 片目はアイピースにピッタリつけます。
- 脇をしめます。
- 左手は、レンズを支えるようにします。
- 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。
- 建物や壁にもたれたり、机などに肘をつくようにしても、効果があります。

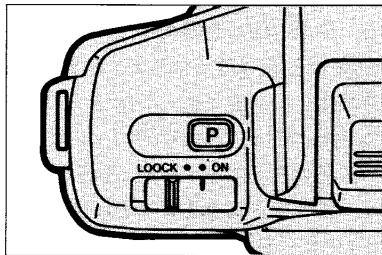
手ぶれ表示について

シャッター速度が遅くなる(暗いシーンなど)場合や、望遠レンズを使う場合などは、手ぶれが起こりやすくなります。このような場合は、スクリーン外表示部の手ぶれ表示が点滅してお知らせします。三脚を使って撮影してください。

ゼロタイムオート

α-7Xiはカメラを構えると同時に撮影の準備を完了するゼロタイムオートを搭載しています。メインスイッチをONにした後、グリップを握り(グリップセンサーに触れて)、ファインダーを覗くとファインダー下部にあるアイセンサーがファインダーを覗いていることを検知し、カメラが自動的に画角の設定※、ピント合わせ、露出(シャッター速度と絞りの組み合わせ)の決定をします。この機能をゼロタイムオートと言います。

※画角の設定は、AFズームXiシリーズのズームレンズを使って、メインスイッチをONにして最初にカメラを構えたときに行ないます。この機能をオートスタンバイズーム(ASZ)と呼びます。(詳しくは78ページをご覧ください)

- 手袋などをしているときは、グリップセンサーに触れていても、ゼロタイムオートははたらきません。
- このときはシャッターボタンを半押し(21ページ参照)してください。ピント合わせと露出の決定が行なわれます。ただしオートスタンバイズームは働きません。
- サングラスをかけていると、その種類によっては、ゼロタイムオートがはたらかないことがあります。これはアイセンサーがファインダーを覗いていることを検知できないためです。サングラスを外してお使いください。

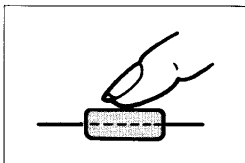
- カスタムカードXiを使うと、グリップセンサーに触れなくてもゼロタイムオートをはたらかせることができます。

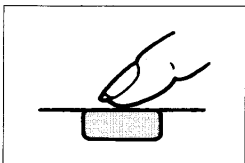
メインスイッチ

メインスイッチは、LOCKとONの切り替え式です。

LOCK ……カメラの電源が切れ、すべての作動が停止し、不用意にシャッターが切れるのを防止します。

ON…………カメラの電源が入り作動します。また、ONにすると同時に電池の容量チェックを行ないます。

シャッターボタン

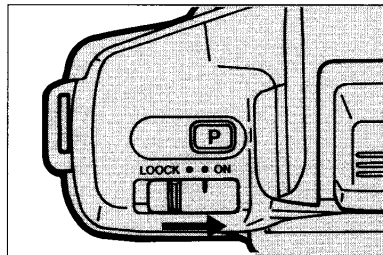
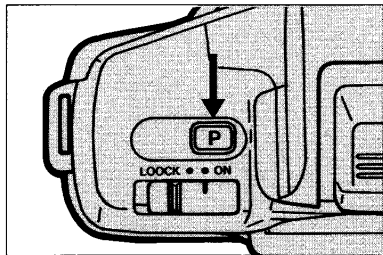
シャッターボタンをゆっくり押し込んでください。途中でクリック(少し重くなる位置)があります。本書では、ここまで押し込むことを"半押し"、と呼びます。
シャッターボタンは、この半押しの状態と完全に押し込んだ状態のときで働きが違います。

半押しすると

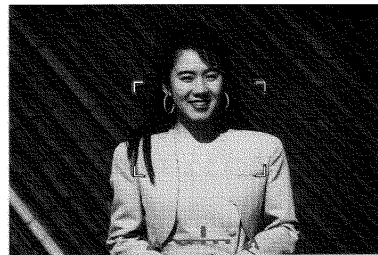
- 写すものが止まっている場合、ピント露出が固定されます。
- アイスタートが作動しないとき(20ページ参照)にピント合わせと露出の決定が行なわれます。

完全に押し込むと、シャッターが切れ撮影します。

基本的な撮影

一眼レフカメラが初めての方、
気軽に撮影したい方は、
この章をお読みください。

基本的な撮影

フルオート撮影は、ピント合わせ、露出の決定、フラッシュの発光する/しない、画角の設定などをカメラが自動的に判断して撮影する方法です。

1 メインスイッチをONにします。

2 プログラムセットボタンを押します。

●プログラムセットボタンの機能については、29ページを参照してください。

3 写したいものが[ ]に入るようにカメラを構えます。

●ピント合わせ、測光、ズーミングが自動的に行なわれます。

●スクリーン外表示部のフォーカス表示がピントの状態をお知らせします。

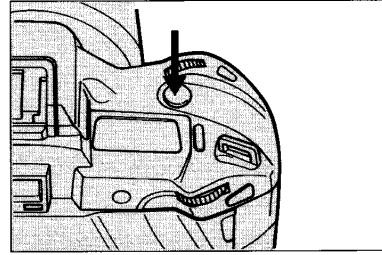
● ●● が点灯して写すものにピントが合っていることを知らせます。

● ● の点灯は写すものが止まっている場合にピントが固定されていることを知らせます。

●ピントが合わないときは ( ) が点灯、または ● が点滅します。

ピントが合っていないと撮影できません。ピントが合わないときは、33ページを見てください。

●スクリーン外表示部とボディ表示部に、選択されたシャッター速度と絞り値が表示されます。

●スクリーン外表示部の マークが点灯すると、フラッシュ撮影することを知らせています。

4 シャッターボタンを押し込んで撮影します。

●撮影後、フイルムは自動的に次のコマに巻き上げられます。

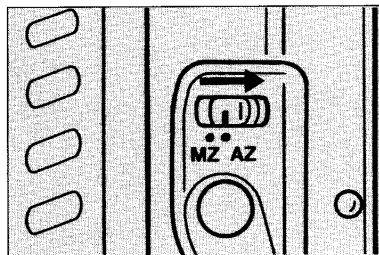
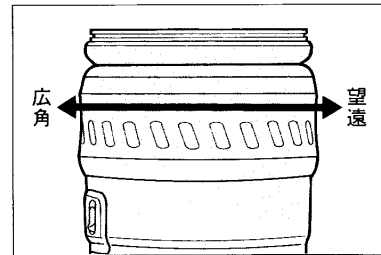
フラッシュについて

- フラッシュが必要な場合はスクリーン外表示部の マークが点灯し、撮影時に自動的に発光します。
- フラッシュが下がっているときは、シャッターボタンを半押しすると上がります。
- フラッシュの充電が完了していないと、撮影できません。スクリーン外表示部の または マークが点灯するまでお待ちください。
- 撮影後、適正露出が得られると、スクリーン外表示部の または マークが点滅します。
- 撮影終了後、手でフラッシュを押し下げてください。

- フラッシュ撮影をする場合は、レンズフードを外してください。フラッシュ光が遮られ下部が暗くなることがあります。

ズーミング

AFズームXiレンズを取り付けたとき

このカメラとXiシリーズのレンズを組み合わせて使用すると、ズームリングを10°の角度内で軽く回すだけで、電動のズーミングができます(これをパワーズームと言います)。

1 レンズのAZ/MZスイッチをAZにします。

2 レンズのズームリングを回して希望の画角にします。そのとき、ズームリングの回す角度によって、ズーミングの速度が変わります。

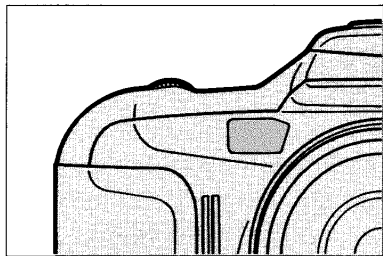
- カメラから見て時計方向に操作リングを回すと望遠側に、反時計方向に回すと広角側にズーミングします。

3 希望の画角になれば、ズームリングから手を放します。

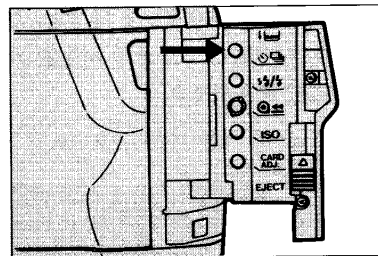
- ズームリングがもとの位置に戻り、ズーミングが停止します。

Xi以外のAFズームレンズを取り付けたとき

パワーズームできません。ズームリングを回して、希望の画角にしてください。

AF補助光

写すものが暗く、明暗差(コントラスト)が低い場合は、自動的に赤色のAF補助光が発光します。
AF補助光での測距可能範囲は、約0.9〜9mです。

- カメラを構えたときに、AF補助光発光部を覆わないようにしてください。
- AF補助光は、AFマクローズ3X-1Xおよび焦点距離300mm以上のレンズ(AFズーム100-300F4.5-5.6、AFズーム75-300F4.5-5.6を除く)では発光しません。

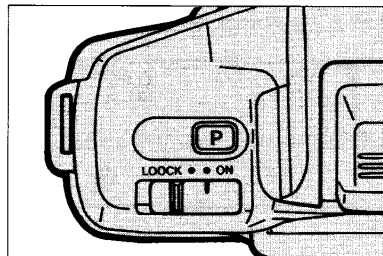
セルフタイマー

1 カードホルダーを開きます。

2 ボディ表示部に マークが出るまで、セルフタイマーボタンを数回押します。

3 ピントを合わせ、シャッターボタンを押し込みます。

- セルフタイマーランプが点滅し、約10秒後に撮影されます。
- 撮影後、セルフタイマーは解除されます。

- 作動中のセルフタイマーを止めるには、メインスイッチをLOCKにしてください。
- セルフタイマーの解除は、上記のようにしてセルフタイマーの作動を止めてから、セルフタイマーボタンを操作するか、プログラムセットボタンを押します。プログラムセットボタンを押すと、その他の設定も変わります(29ページ参照)。

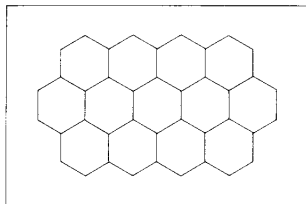
- いっきにシャッターボタンを押し込まないでください。ピントが合わないことがあります。

プログラムセットボタン

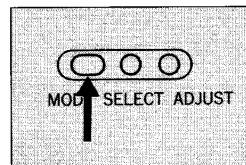
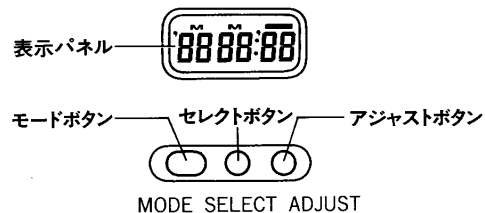
プログラムセットボタンを押すと、カメラの各機能はフルオート撮影の状態に設定されます。

機　能	ボタンを押した後の状態
撮影モード	Pモード
巻き上げ	1コマ巻き上げ
露出補正	±0
ピント合わせ	オートフォーカス
測光方式	14分割ハニカムパターン測光※
AFエリア	ワイドフォーカスエリア
フラッシュモード	自動発光（プリ発光の有無は変わりません）

●カスタムカードFXi（別販売）を使用すると、プログラムセットボタンを押した後のカメラの状態を変更することができます。

※14分割ハニカムパターン測光について

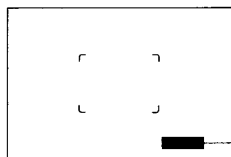
このカメラは下図に示すように、撮影画面内に13個のハニカム（ハチの巣）形状の測光素子とその周囲の測光素子の合計14個の測光素子を配置して多分割測光をしています。
これを14分割ハニカムパターン測光と呼びます。

日付け・時間の写し込み

表示とボタンの配置

モードボタンを押して、写し込みたい日付け、時間を選びます。

●モードボタンを押すたびに、表示は以下のように変わります。

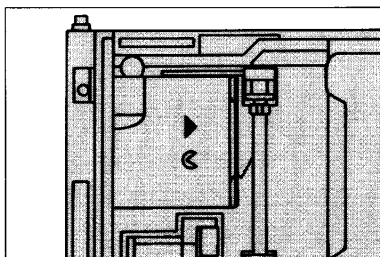
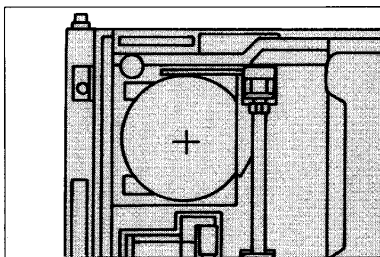
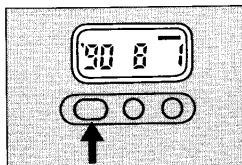
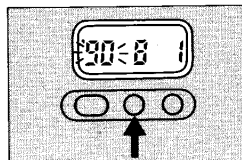
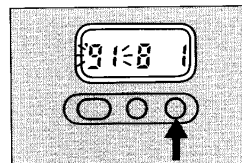
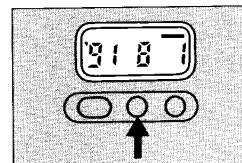
撮影します

●撮影後、データ表示パネルの「ー」が約2秒間点滅して、写し込まれたことを示します。

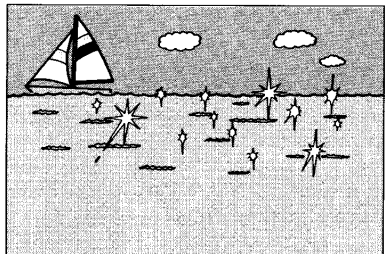
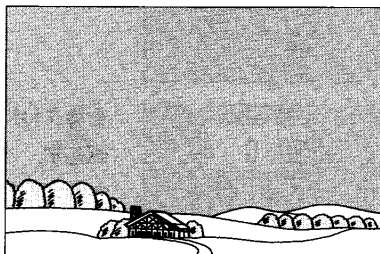
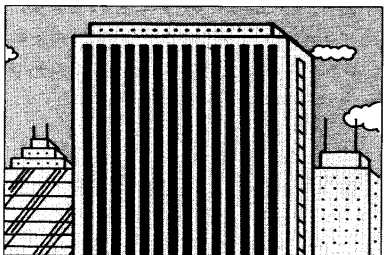
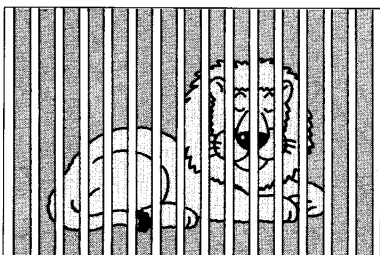
●撮影時、写し込み位置に明るい色（空や白い壁など）があると、文字が読みにくくなることがあります。

写し込み位置

- 2019年12月31日までの日付が記憶しています。
- ISO32〜1600のフイルムをご使用ください。それ以外のフイルムは、きれいに写し込めないことがあります。
- 写し込みの濃度は、フイルムの種類や温度などの条件によって、若干異なります。
- このカメラの温度が、0℃以下または50℃以上になるところでは、きれいに写し込めないことがあります。
- 複写用フイルム、ポラロイド35㎜スライド用フイルム、赤外線フイルムなどは、一般用フイルムと特性が違うために、きれいに写し込めませんので、写し込まないでください。

データ用電池の交換　使用する電池：CR2025 1個

写し込んだ文字が薄い場合は、電池を交換してください。

1. **電池室のふたを開けます。**
   - ▶の方向に押して、手前に引きます。
2. **電池を+側を上にして入れます。**
3. **ふたを閉めます。**
   - 右部を差し込んでから、左部を押し込みます。

日付け・時間の修正

1. **モードボタンを押して、修正したい表示を選びます。**

2. **セレクトボタンを押して、修正したい数字を点滅させます。**
   - 表示部のプリントマークが消え、修正中であることを示します。
   - セレクトボタンを押すたびに、年→月→日または時→分→秒（：）の順に点滅する数字が変わります。
   - 点滅している数字の修正がなければ、もう一度セレクトボタンを押してください。

3. **アジャストボタンを押して、正しい数字に合わせます。**
   - アジャストボタンを押し続けると、数字は連続的に変わります。
   - 秒を時報に合わせるには、（：）を点滅させ、時報に合わせてアジャストボタンを押します。

4. **数字の点滅が点灯になるまで、セレクトボタンを押します。**
   - 表示部のプリントマークが点灯し、修正の終了を示します。

オートフォーカスの苦手な被写体

以下のような被写体は、オートフォーカスでピントが合いにくい場合があります。
このような場合は40ページのフォーカスロック撮影や43ページの手動によるピント合わせを行なってください。

太陽のように明るすぎる被写体や車のボディ、水面など反射している被写体

青空など遠くて(AF補助光の届かない)、明暗差(コントラスト)のない被写体

繰り返しパターンの連続する被写体

遠くと近くに共存する被写体

写真の描写を変えるには

仕上った写真の背景のボケ具合や動く被写体の動感などの描写は、絞りやシャッター速度によって変わります。
これらの描写は撮影時に予想することが難しく、狙いどおりの描写を得るには熟練が必要です。
イメージインジケーターは、このような撮影者の意図を生かした写真を撮るための手助けをします。
イメージインジケーターは、背景のボケの程度を表す背景インジケーターと、写したいもの(被写体と言います)の動く程度を表す動感インジケーターの2種類があります。
インジケーターを頼りに、絞りやシャッター速度を変えることによって、描写を思いどおりに変えてみてください。

背景インジケーター	P(プログラムAE)モード PAシフト A(絞り優先AE)モード	で表示されます。
動感インジケーター	PSシフト S(シャッター速度優先AE)モード	で表示されます。

●フラッシュ撮影する場合、イメージインジケーターは使えません(表示されません)。

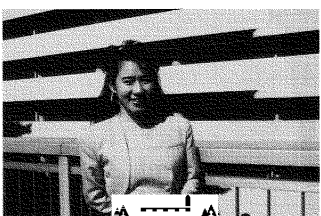
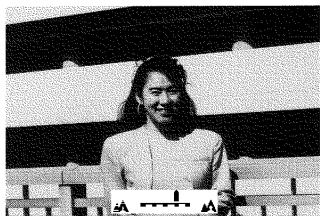
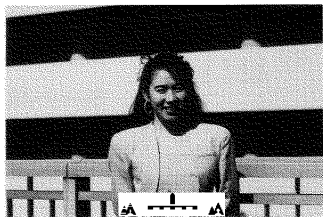
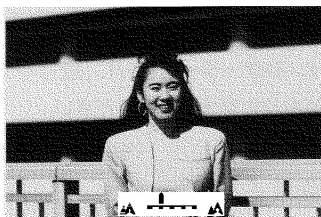
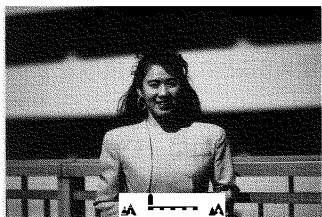
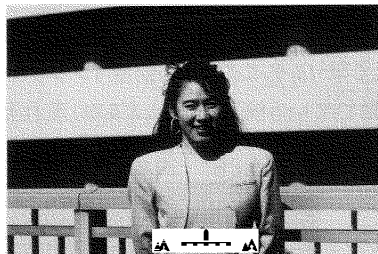
イメージインジケーターを消すときは

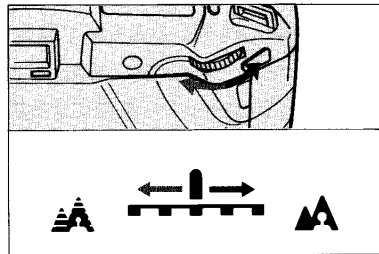
1 メインスイッチをLOCKにします。

2 プログラムセットボタンを押しながら、メインスイッチをONにしてください。
●再度同じ操作をすると、再び表示されます。

背景インジケーター

背景インジケーターは、▮の示す位置が左になるほど背景のボケは大きく、右になるほど背景がシャープになります。ポートレート写真は、背景をぼかす(インジケーターの指示が左にある)ことによって、被写体を浮き立たせ、また記念撮影は、背景までシャープにピントを合わせる(インジケーターの指示が右にある)ときれいに仕上がります。

インジケーターの各々の位置でのボケ具合は、以下の作例写真を参考にして下さい。

撮影の例

1 フルオート撮影の状態で被写体にピントを合わせます。

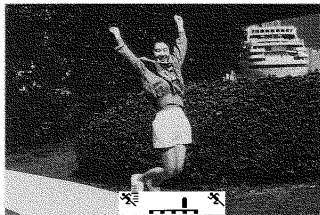
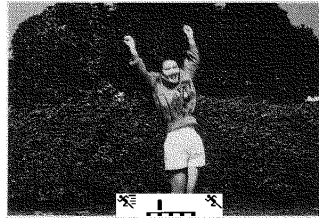
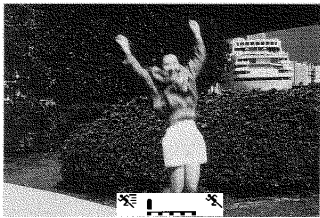
●このとき背景インジケーターは図のようになっています。

2 インジケーターが希望の位置になるように、後ダイヤルを回します。

●レンズの明るさ(開放FNo.)や撮影距離、焦点距離により、希望の表示が得られない場合があります。

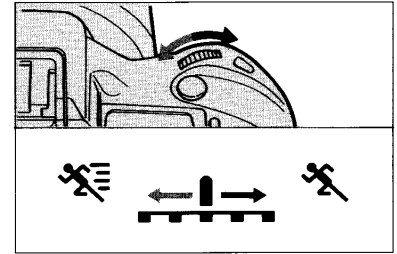
3 シャッターボタンを押し込んで撮影します。

●被写体と背景が近すぎると、仕上がった写真のボケ具合が左の作例写真と異なる場合があります。

動感インジケーター

動感インジケーターは、動いている被写体を撮影する場合に、被写体が止まって写るか、流れて写るかの程度を示します。
例えばジャンプしている人を写す場合、インジケーターが右にあると人は止まって写り、インジケーターが左にあると人は流れて写ります。このように動感インジケーターによって、シャッター速度による効果（動いている被写体が止まるか、流れるか）を確認することができます。

撮影の例

1 フルオートの状態で被写体にピントを合わせます。

- このときは背景インジケーターが表示されています。

2 前ダイヤルを回し、インジケーターをセットします。

- 背景インジケーターが動感インジケーターに変わります。

- レンズや明るさ（開放FNo.）や焦点距離などにより、希望の表示が得られない場合があります。

3 シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- 被写体が静止していたり動く速度が遅すぎる場合（動きのない被写体の場合）、動感インジケーターは使えません。

応用的な撮影

ピントの固定、露出の決め方、フイルムの巻き上げ方などな、
いろいろな方法があります。
この章ではそれらの操作を説明しています。

フォーカスロック撮影

被写体をフォーカスフレームの外側にして撮影するときなど簡単な操作で、ピントを固定することができます。

1 撮影したい構図を決めます。

2 ピントを合わせたいものにピントを合わせシャッターボタンを半押しします。

- フォーカス表示●が点灯します。
- ピントが固定されます（フォーカスロックと言います）。

3 シャッターボタンを半押ししたまま、構図をもとにもどします。

4 シャッターボタンをさらに押し込んで撮影します。

- シャッターボタンから指を離すと、フォーカスロックは解除されます。

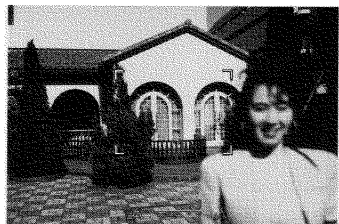
- 動いている被写体の場合、フォーカスロックはできません。
- フォーカスロック後ズーミングをした場合は、再度ピントを合わせなおしてください。

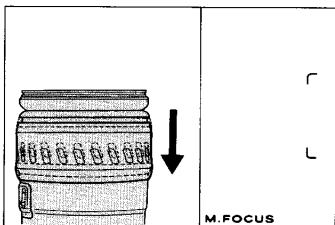
ピントの固定

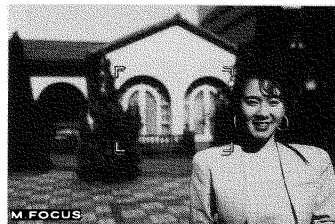
フォーカスホールド

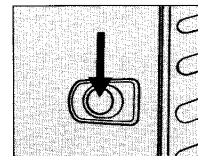
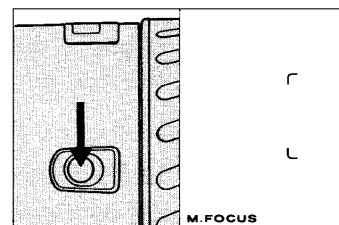
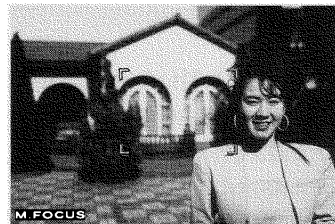
※フォーカスホールドボタン付きAFレンズ、Xiレンズ、以外のレンズは、フォーカスホールドはできません。

前述のフォーカスロックと同様に、レンズの操作でもピントを一時的に固定させることができます。この方法は、あらかじめピントをある場所に固定しておき、被写体がその場所にきたとき撮影する置きピン撮影などに使うことができます。

AFズームXiレンズの場合

1 構図を決めます。

2 被写体にピントを合わせシャッターボタンを半押しします。

3 レンズのズームリングをカメラ側に引きます。

- ピントが固定され、ファインダースクリーンに"M. FOCUS"と表示されます。
- シャッターボタンから指を放してもピントは固定されています。

4 ズームリングを手前に引いたまま、構図をもどし撮影します。

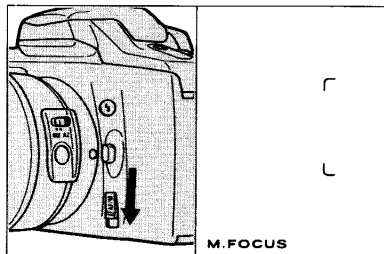
フォーカスホールドボタン付きAFレンズの場合

1 被写体にピントを合わせ、シャッターボタンを半押しします。

2 レンズのフォーカスホールドボタンを押します。

3 ピントが固定され、ファインダースクリーンに"M. FOCUS"と表示されます。

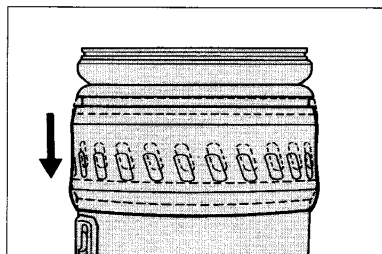
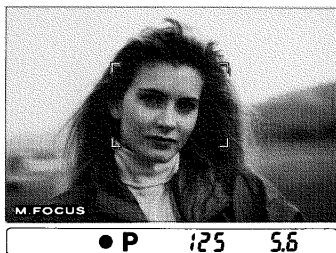
4 フォーカスホールドボタンを押したまま、構図をもどし撮影します。

- 14分割ハニカムパターン測光を選んでいるとフォーカスホールドすると、ピントと同時に測光値も固定します。フォーカスホールドしたままで続けて撮影する場合、被写体の明るさが変わると、適正露出が得られないことがあります。

手動によるピント合わせ

AFズームXiレンズを取り付けたとき

オートフォーカスでピントが合わない場合や、ピントを意図的にずらして撮影する場合は、電動でのピント合わせ(パワーフォーカスと言います)をしてください。

1 カメラのフォーカスモードスイッチを1回押し下げます。

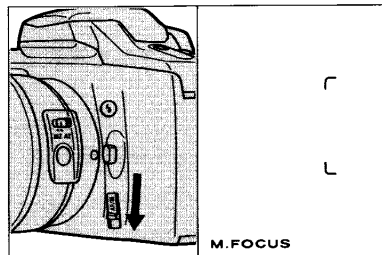
- マニュアル(手動)フォーカスに切り替わります。
- ファインダースクリーンに"M. FOCUS"と表示されます。

2 レンズのズームリングをカメラ側に引きます。

3 ズームリングを引いたまま、左右に回して被写体がはっきり見えるようにします。

- 右に回すと近距離のものに、左に回すと、遠距離のものにピントが合います。
- オートフォーカスでピントが合うような被写体の場合は、フォーカス表示●が点灯してピントが合ったことをお知らせします。

4 被写体がもっともはっきり見えるところで、ズームリングから手を放します。

AFズームXi以外のαレンズを取り付けたとき

パワーフォーカスはできません。手動でのピント合わせを行なってください。

1 カメラのフォーカスモードスイッチを1回押し下げます。

- マニュアル(手動)フォーカスに切り替わります。
- ファインダースクリーンに"M. FOCUS"と表示されます。

2 レンズ先端のフォーカスリングを回してピントを合わせます。

- 右に回すと近距離側に、左に回すと、遠距離側にピントが合います。
- オートフォーカスでピントが合うような被写体の場合は、フォーカス表示が点灯してピントが合ったことをお知らせします。

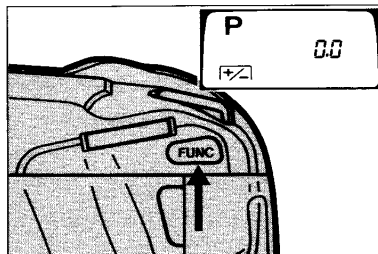
- 14分割ハニカムパターン測光は、オートフォーカスと連動しているため、フォーカスモードスイッチを押し下げてマニュアルフォーカスにすると同じシーンでも測光値が異なることがあります。

撮影モード

一眼レフカメラは、レンズの絞りとシャッター速度でフイルムに当たる光の量(露出といいます)が決まります。露出を決める場合に、シャッター速度と絞りのどちらを優先するかによって撮影モードを選んでください。

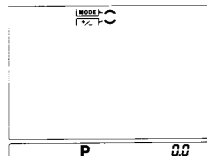
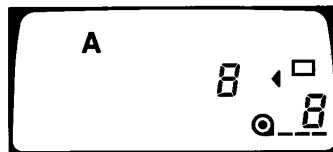
このカメラは、4つの撮影モードがあります。

モード	説明
1.P(プログラムAE)**モード**	カメラが絞りとシャッター速度を決めます。
2.A(絞り優先AE)**モード**	絞りを設定するとシャッター速度が自動的に決まります。
3.S(シャッター速度優先AE)**モード**	シャッター速度を設定すると絞りが自動的に決まります。
4.M(マニュアル)**モード**	シャッター速度と絞りの両方を設定することができます。

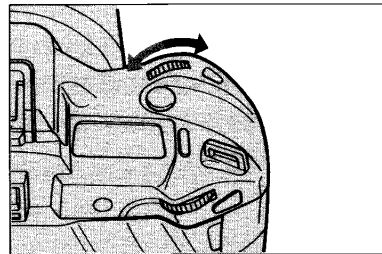
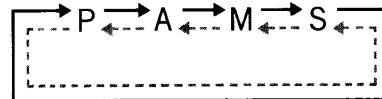
撮影モードの選び方

1 ファンクションボタンを押します。

- ボディ表示部が上図のように変わり、設定できる状態になったことをお知らせします。

- ファンクション1表示が出ます。

2 前ダイヤルを回して撮影モードを選びます。

- モードは以下のように変わります。

3 シャッターボタンを半押しし、設定を完了します。

- 設定後、4秒間操作をしないと設定は自動的に完了します。

P(プログラムAE)モード

構図を決め、被写体にピントを合わすだけで、適正露出が得られる絞りとシャッター速度を自動設定します。撮影モードだけをPモードにするときは、46ページの操作で、またPモードを含めフルオートの状態にするときは、プログラムセットボタンを押してください。

撮影モード

Pモードフラッシュ撮影

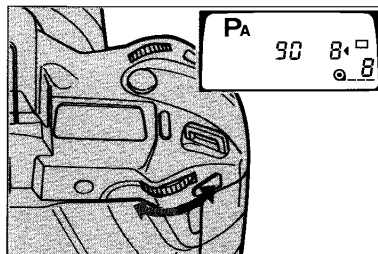
- フラッシュが必要な場合はスクリーン外表示部の PE マークが点灯し、お知らせします。
- フラッシュが下がっているときは、シャッターボタンを半押しすると上がります。
- 撮影後、適正露出が得られると、スクリーン外表示部の ϟϟ または ϟ マークが点滅します。
- 一時的にフラッシュを使わずに撮影したい場合は、フラッシュが上がっていて、PE マークが点灯している間に、フラッシュを押し下げてください。スクリーン外表示部の PE マークが消えます。この状態で撮影すると、フラッシュは発光しません。
- フラッシュを自動発光させたくないときは、フラッシュを下げてから、カードホルダー内のフラッシュモードボタンを1回押し、前または後ろダイヤルを回して発光禁止 OFFϟ を選んでください(68ページ参照)。
- スクリーン外表示部の PE マークが点灯していない(カメラはフラッシュが不要と判断しています)とき、フラッシュポップアップボタンを押しながら撮影すると、強制的に発光することができます。

- フラッシュ撮影をする場合は、レンズフードを外して下さい。フラッシュ光が遮られ下部が暗くなることがあります。
- フラッシュの充電が完了しないと、撮影できません。スクリーン外表示部の ϟ または ϟϟ マークが点灯するまで、シャッターボタンに触れずにお待ちください。

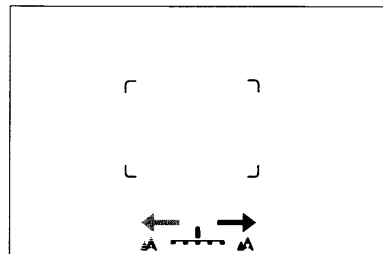
イメージシフト

Pモードでも撮影者の希望の描写になるように、絞りやシャッター速度を簡単な操作で変えることができます。
これをイメージシフトと呼びます。イメージシフトには、絞りの効果を活かした描写にするP_Aシフトとシャッター速度の効果を活かした描写にするP_Sシフトがあります。

- イメージシフトでフラッシュ撮影はできません。フラッシュ撮影したいときは、フラッシュポップアップボタンを押して、Pモードにしてください。
- Pモードでスクリーン外表示部の P マークが点灯しているときは、イメージシフトに切り替わりません。
  シャッター速度と絞り値が表示されているときに、フラッシュを押し下げて、ダイヤルを回すとイメージジフトに切り替わります。

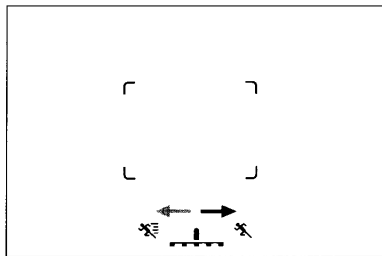
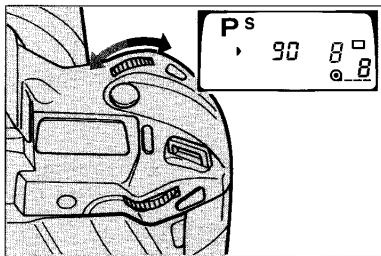
撮影モード

P_Aシフト

1 Pモードでシャッター速度と絞り値が表示されているときに、後ダイヤルを回します。

- P_S シフトから後ダイヤルを回しても、P_A シフトになります。

2 背景インジケーターが希望の位置になるようにします。

- 絞り値とシャッター速度が同時に変化します。
- P_A シフトからPモードに戻すには、2つの方法があります。
  1、フラッシュポップアップボタンを押します。(フラッシュは上がります。)
  2、プログラムセットボタンを押します。プログラムセットボタンを押すと、巻き上げなど他の設定も変わります(29ページ参照)。
- カメラから顔を離してから30秒以上たつと自動的にPモードに戻ります。

- 絞り値が大きくなる(背景インジケーターの指示が右側にある)と、シャッター速度が遅くなり手ぶれが起きやすくなります。スクリーン外表示部の手ぶれ表示 を目安に、三脚などを使って防止してください。

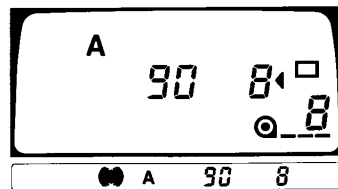
Psシフト

1 Pモードでシャッター速度と絞り値が表示されているときに、前ダイヤルを回します。

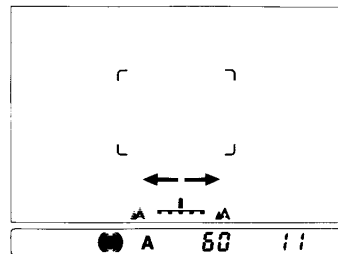
- PA シフトから前ダイヤルを回しても、Ps シフトになります。

2 動感インジケーターが、希望の位置になるようにします。

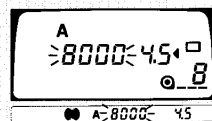
- シャッター速度と絞り値が同時に変化します。
- Ps シフトからPモードに戻すには、2つの方法があります。
  1、フラッシュポップアップボタンを押します。（フラッシュは上がります。）
  2、プログラムセットボタンを押します。プログラムセットボタンを押すと、巻き上げなど他の設定も変わります（29ページ参照）。
- カメラから顔を離してから30秒以上たつと自動的にPモードに戻ります。

- シャッター速度が遅くなる（動感インジケーターの指示が左側にある）と手ぶれが起きやすくなります。スクリーン外表示部の手ぶれ表示を目安に、三脚などを使って防止してください。

A（絞り優先AE）モード

1 Aモードを選びます（46ページ参照）。

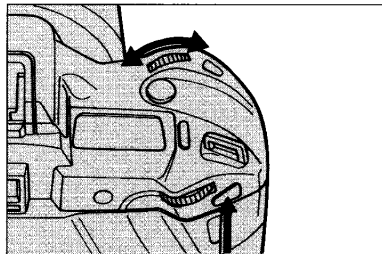
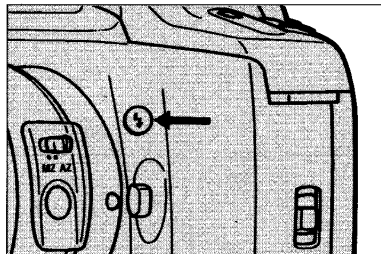
- ◀マークが絞り値を変更できることを表示しています。

2 後ダイヤルを回して、表示部の絞り値が、希望の値になるようにします。

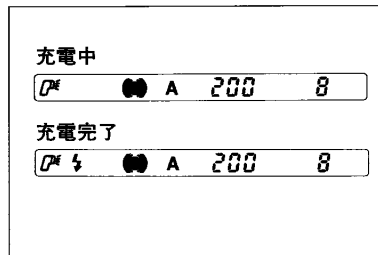
- 設定できる絞り値は、使用しているレンズによって異なります。

3 背景の描写が思いどおりになっていることを、背景インジケーターで確認します。

- 表示部のシャッター速度が点滅している場合は、適正露出が得られません。絞り値を変えて、点滅しないようにして下さい。

撮影モード

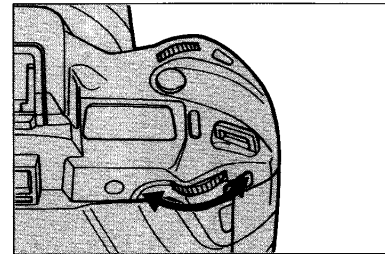
Aモードフラッシュ撮影

フラッシュが上がっていると、撮影のときフラッシュが必ず発光します。

1 撮影モードをAモードにします(46ページ参照)。

2 フラッシュポップアップボタンを押します。

- スクリーン外表示部の マークが点灯し、フラッシュの充電が始まります。
- フラッシュが上がります。

3 スクリーン外表示部の ϟ または ϟϟ マークが点灯していることを確認します。

- ϟ または ϟϟ マークの点灯は、フラッシュの充電が終わっていることを表します。また充電中は マークだけが点灯し、撮影できません。
- シャッター速度は、自動的に1/200秒に設定されます。

5 シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- 撮影後、スクリーン外表示部の ϟ または ϟϟ マークが点滅して、適正露出が得られたことをお知らせします。もし点滅しないときは、被写体にもう少し近づいて撮影しなおすことをおすすめします。

4 後ダイヤルを回して、希望の絞り値に設定します。

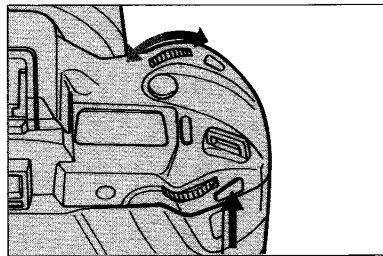
- 設定する絞り値によって光の到達距離(調光距離と言います)が以下のように変わります。

調光距離範囲(m)

絞り値 \ フィルム感度	ISO100	ISO400
1.4	1.0〜8.4	1.0〜17.0
1.7	1.0〜6.8	1.0〜14.0
2.8	1.0〜4.2	1.0〜 8.4
3.5	1.0〜3.4	1.0〜 6.8
4.0	1.0〜3.0	1.0〜 6.0
5.6	1.0〜2.0	1.0〜 4.2
8.0	1.0〜1.5	1.0〜 3.0
11.0	1.0〜1.0	1.0〜 2.0

絞りを11より絞り込む(16、22など数値が大きくなる)と調光距離範囲が1mより短くなり露出アンダーな写真になります。

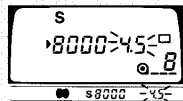
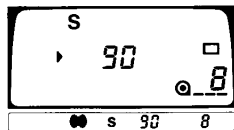
- フラッシュ撮影をする場合は、レンズフードを外して下さい。フラッシュ光が遮られ下部が暗くなることがあります。
- フラッシュの充電が完了していないと、撮影できません。スクリーン外表示部の ϟ または ϟϟ マークが点灯するまで、シャッターボタンに触れずにお待ちください。

S(シャッター速度優先AE)モード

1 撮影モードをSモードにします(46ページ参照)。

- ▶マークがシャッター速度を変更できることを表しています。

2 前ダイヤルを回して、ボディまたはスクリーン外表示部のシャッター速度が、希望の値になるようにします。

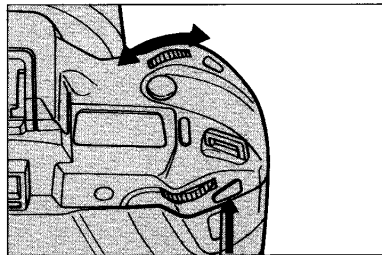
- 設定できるシャッター速度の範囲は、1/8000～30秒です。

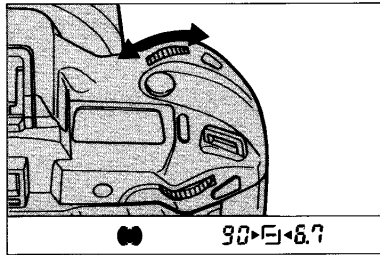
3 被写体の描写が思い通りになっているか、動感インジケーターで確認します。

- 表示部の絞り値が点滅している場合は、適正露出が得られません。シャッター速度を変えて、点滅しないようにしてください。

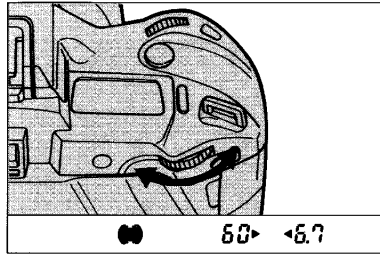
Sモードフラッシュ撮影

Sモードで撮影中にフラッシュ撮影したいときは、フラッシュポップアップボタンを押して、フラッシュを上げます。フラッシュが上がっていると、撮影のときにフラッシュは発光します。
また、露出はPモードと同様に、カメラが自動的に絞りとシャッター速度を設定します。

- フラッシュ撮影をする場合は、レンズフードを外してください。フラッシュ光が遮られ下部が暗くなることがあります。
- フラッシュの充電が完了しないと、撮影できません。スクリーン外表示部の ϟ または ϟϟ マークが点灯するまで、シャッターボタンに触れずにお待ちください。

M(マニュアル)モード

1 Mモードにします(46ページ参照)。

● ▶◀マークがシャッター速度と絞り値を変更できることを表します。

2 前ダイヤルを回して、希望のシャッター速度になるようにします。

● 設定できるシャッター速度の範囲は、1/8000～30秒・bulbです。

3 後ダイヤルを回して、希望の絞り値になるようにします。

● 設定できる絞り値は、レンズによって異なります。

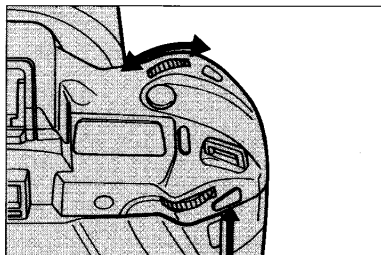
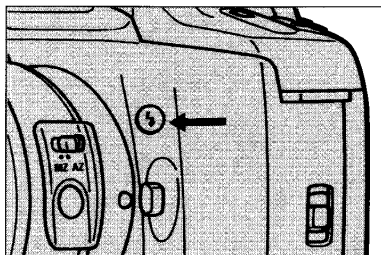
4 スクリーン外表示部に以下のように露出をお知らせします。

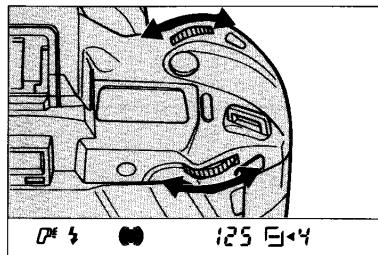
	シャッター速度設定時	絞り設定時
露出オーバー	90▶⊞ 11	125▶⊞ 9.5
適正露出	125▶ ◀11	125▶ ◀11
露出アンダー	200 ⊟◀11	125 ⊟◀13

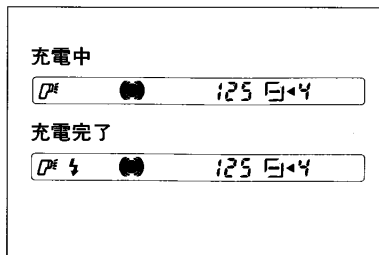
● 適正露出でないとき▶◀の方向にダイヤルを回すと適正露出になります。

5 シャッターボタンを押し込んで撮影します。

Mモードフラッシュ撮影

フラッシュが上がっていると、撮影時に必ずフラッシュが発光します。

1 撮影モードをMモードにします(46ページ参照)。

2 フラッシュポップアップボタンを押します。

- スクリーン外表示部の マークが点灯し、フラッシュの充電が始まります。
- フラッシュが上がります。

3 後ダイヤルで絞り値を、前ダイヤルでシャッター速度を設定します。

- 設定できるシャッター速度は、1/200〜30秒・bulbです。

4 ファインダー表示部の ⚡ または ⚡⚡ マークが点灯していることを確認します。

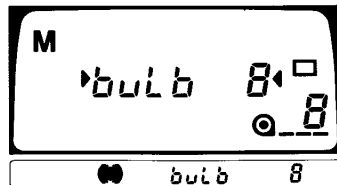
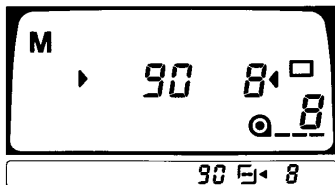
- ⚡ または ⚡⚡ マークの点灯は、フラッシュの充電が終わっていることを表します。また充電中は マークだけが点灯し、撮影できません。

5 シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- 撮影後、スクリーン外表示部の ⚡ または ⚡⚡ マークが点滅すると、露出が適正です。

- フラッシュ撮影をする場合は、レンズフードを外してください。フラッシュ光が遮られ下部が暗くなることがあります。
- フラッシュの充電が完了していないと、撮影できません。スクリーン外表示部の ⚡ または ⚡⚡ マークが点灯するまで、シャッターボタンに触れずにお待ちください。

バルブ撮影

シャッターボタンを押している間シャッターは開いたままになります。天体撮影など長時間の露出が必要なときに使用します。

1 撮影モードをMモードにします。

2 前ダイヤルを回し、表示部にbulbと表示させます。

3 後ダイヤルを回し、希望の絞り値に設定します。

4 ピントを合わせ、必要な露出時間シャッターボタンを押し続けます。

● シャッターボタンから指をはなすと、シャッターは閉じ、露出は終了します。

●カメラぶれを防ぐために、三脚をお使いください。またファインダーからの逆入光を防ぐために、アイピースキャップを取り付けてください。

●リモートコードRC-1000S/L(別販売)を使うと、カメラぶれの防止に役立つと共に、シャッターボタンを押したまま固定できます。

露出の警告

カメラの測光できる範囲より被写体が明るすぎる場合や、暗すぎる場合、ボディ表示部とスクリーン外表示部に以下のようにお知らせします。

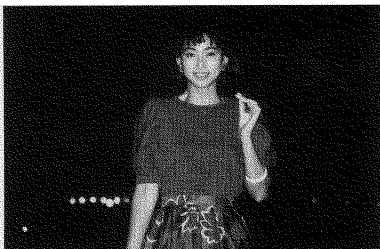
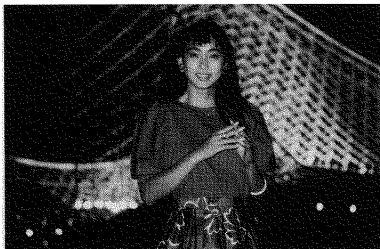
	表示部	原因	処置
P/A/S/M	P AUTO 8000 22 8 / P 8000 22	被写体が明るすぎる、または暗すぎてカメラの測光範囲を越えています。	被写体が明るすぎるときは、NDフィルターを使うか、被写体が暗くなるようにします。
P	P AUTO 8000 22 8 / P 8000 22	被写体が明るすぎる、または暗すぎて使用レンズの絞り値、シャッター速度の範囲を越えています。	
A/PA シフト	A 8000 3.5 8 / A 8000 3.5	被写体が明るすぎる、または暗すぎてシャッター速度の範囲を越えています。	また暗すぎるときには、フラッシュや照明を使って、被写体が明るくなるようにします。
S/PS シフト	S 8000 3.5 8 / S 8000 3.5	被写体が明るすぎる、または暗すぎて絞り値の範囲を越えています。	

進んだフラッシュ撮影

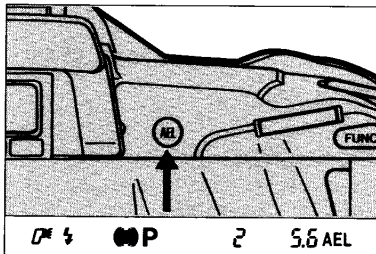
通常のフラッシュ撮影以外に夜景などをバックにしたフラッシュ撮影（スローシンクロと言います）や、日中でのフラッシュ撮影（日中シンクロと言います）も簡単な操作でおこなえます。

スローシンクロ撮影

夜景を背景にして記念撮影をする場合など、通常のフラッシュ撮影では、被写体は適正露出になりますが背景は黒くつぶれてしまいます。このような場合は、スローシンクロ撮影（シャッター速度の遅いフラッシュ撮影）をすると被写体も背景もきれいに写すことができます。
すべての撮影モード（イメージシフトを除く）でスローシンクロ撮影はできますが、特にP、A、Sモードでは、以下のように簡単に撮影できます。

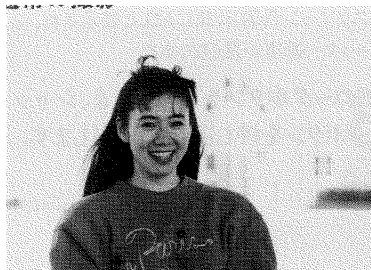
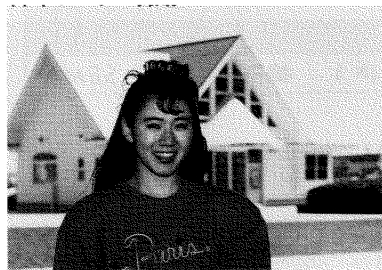
通常のフラッシュ撮影

スローシンクロ撮影

●シャッター速度が遅くなりますので、三脚などにカメラを固定してください。

操作方法

P.A.Sモードとも操作は同じです。

1. カメラをP、A、Sモードのいずれかのフラッシュ撮影の状態にします。
2. 被写体にピントを合わせ、AEロックボタンを押します。
   - ●スクリーン外表示部にAELと表示され、シャッター速度が遅くなります。
3. AEロックボタンを押したまま、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

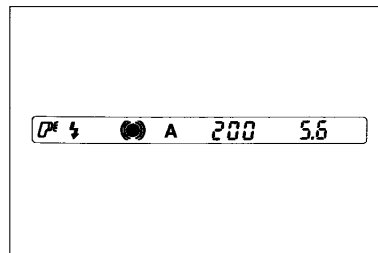
日中シンクロ撮影

被写体に比べて背景が非常に明るい逆光などの場合、そのまま撮影すると、背景が白くとんでしまいがちです。
そのような場合、日中シンクロ撮影をすると被写体にフラッシュ光を補って明るさのバランスをとり、背景と被写体両方を美しく描写します。

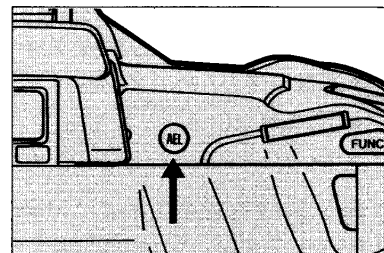
通常の撮影

日中シンクロ撮影

P、Sモードのとき

測光方式を14分割ハニカムパターン測光にしているとカメラが逆光を判断して、自動的に日中シンクロ撮影になります。
そのとき、スクリーン外表示部に マークが点灯します。

- マークが点灯していないときは、フラッシュポップアップボタンを押しながら撮影してください。
- Sモードのときは、フラッシュが上がっていると常にフラッシュが発光します。
- 撮影後、スクリーン外表示部の ⚡ または ⚡⚡ マークが点滅し、適正露出が得られたことをお知らせします。

Aモードのとき

1 Aモードフラッシュ撮影の状態(53ページ参照)にします。

2 ⚡または⚡⚡マークが点灯していることを確認します。

- ⚡ または ⚡⚡ マークが点灯は、フラッシュの充電が終わっていることを表します。

3 被写体にピントを合わせ、AEロックボタンを押します。

- スクリーン外表示部にAELと表示されます。

4 AEロックボタンを押したまま、撮影します。

- スクリーン外表示部の ⚡ または ⚡⚡ マークが点滅し、適正露出が得られたことをお知らせします。

フラッシュモード

内蔵フラッシュには次の3つのモードがあります。

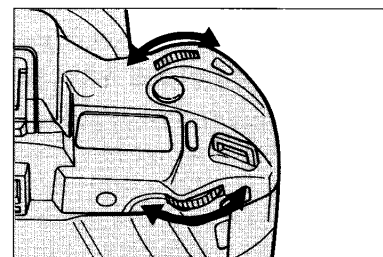
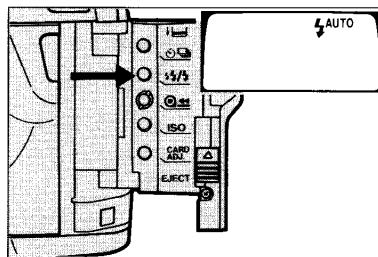
- **赤目軽減のためのプリ発光**
- **プリ発光なし**
- **ワイヤレスフラッシュ撮影のための信号発光**

赤目現象軽減のためのプリ発光とは

暗いところで人物をフラッシュ撮影すると、フラッシュ光が目の中で反射することにより、目が赤く写ることがあります。この現象を赤目現象といいます。
このカメラの内蔵フラッシュは赤目現象を軽減するために、撮影のための発光の直前に小光量の発光をします。これをプリ発光と呼びます。

ワイヤレスフラッシュ撮影のための信号発光とは

プログラムフラッシュ3500Xiとこのカメラを組み合わせると、接続コードなしで、簡単にオフカメラフラッシュ撮影（カメラからフラッシュを離したフラッシュ撮影）ができます（86ページ参照）。
プログラムフラッシュ3500Xiの発光の開始と停止の信号として内蔵フラッシュが小光量で発光します。

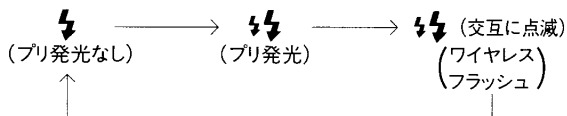
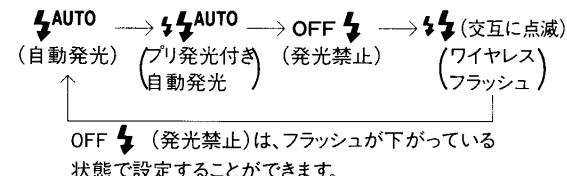
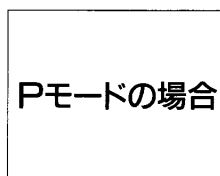
フラッシュモードの選び方

1 カードホルダーを開け、フラッシュモードボタンを押します。

- ボディ表示が上図のようになり、設定可能な状態になります。

2 前ダイヤルまたは後ダイヤルを回し、希望するフラッシュの発光モードを表示させます。

- 再度フラッシュモードボタンを押すと設定を終了します。
- 設定後4秒間操作しないでいると設定を完了します。
- ダイヤルのクリックごとにボディ表示部に以下の順に表示されます。

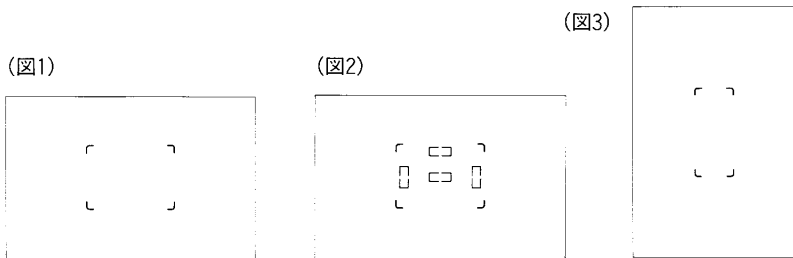
OFF （発光禁止）は、フラッシュが下がっている状態で設定することができます。

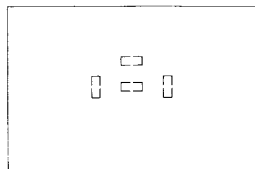
A、S、Mモードの場合

フォーカスフレーム

フォーカスエリアの選択

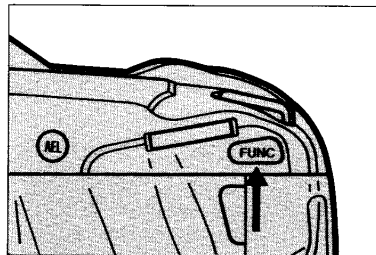
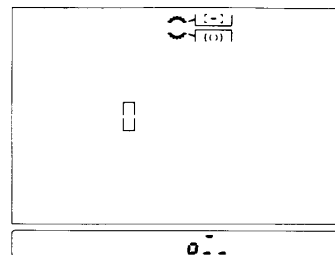
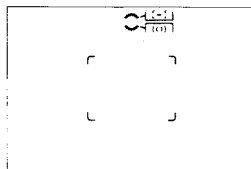
このカメラは動く被写体をとらえやすいなど、オートフォーカスを使い易くするため、フォーカスエリア(ピント位置を測る範囲)を広くしました。これをワイドフォーカスエリアと呼びます。

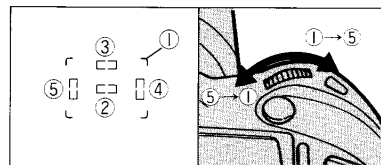
- ワイドフォーカスエリアはファインダー内のワイドフォーカスフレームで囲まれた部分です(図1)。
- ワイドフォーカスエリア内には4つのフォーカスセンサー(被写体との距離を測るセンサー)があります(図2)。
  上側のフォーカスセンサーはカメラ横位置で人物撮影をする場合、顔にピントを合わせるために設けています。カメラ縦位置のときはこのセンサーは使いません。従ってカメラ縦位置のときはフォーカスエリアが自動的に少し狭くなります(図3)。

(図1)　(図2)　(図3)

構図によっては広い範囲でピント位置を測るのでなく、部分的に測りたい場合があります。そのため、このカメラでは4つ(カメラ縦位置のときは3つ)のフォーカスセンサーのうち、いずれか一つを選んで、その部分のピント位置を測ることができるようにしています。これをローカルフォーカスエリアと呼びます。

- ローカルフォーカスエリアはファインダー内でローカルフォーカスフレームで囲まれた部分です。

ローカルフォーカスフレームの選び方

1 ファンクションボタンを2回押します。

- ファインダースクリーンが下図のようになり、設定可能な状態になったことをお知らせします。

2 ファインダーの表示を見ながら、前ダイヤルを回し、希望のローカルフォーカスフレームを表示させます。

- ダイヤルのクリックごとに、以下の順で表示します。

(表示の変化とダイヤルの方向)

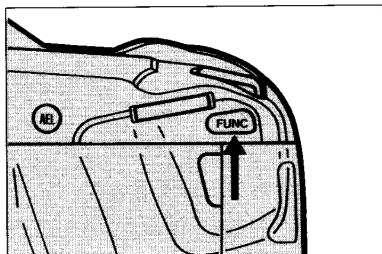
3 シャッターボタンを半押しし、設定を終了します。

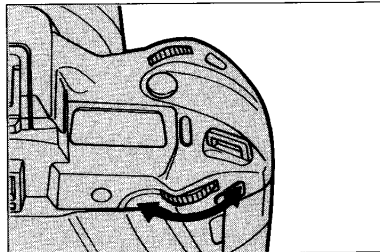
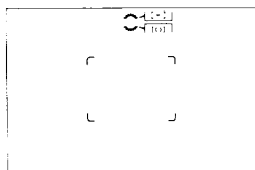
- 設定後、4秒間操作をしないと自動的に設定を終了します。

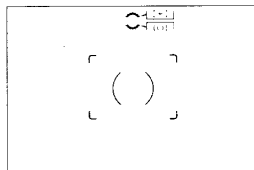
- **RF-500mmF8レンズの場合、カメラを横位置で構えていても、縦位置用のワイドフォーカスフレームが表示されます。またローカルフォーカスフレームは中央のみ使用できます。**

スポット測光

このカメラは、画面を14分割して測光する14分割ハニカムパターン測光と、画面の中央のスポット測光フレーム内だけを測光するスポット測光の2つの測光方式を備えています。

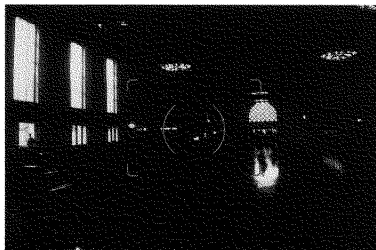
測光方式の選び方

1 ファンクションボタンを2回押します。

● ファインダースクリーンが下図のようになり、設定状態になったことをお知らせします。

2 後ダイヤルを回して、希望の測光方式を選びます。

● ファインダーの表示が以下のように変わります。

3 シャッターボタンを半押しし、設定を終了します。

● 設定後、4秒間操作をしないと自動的に設定を終了します。

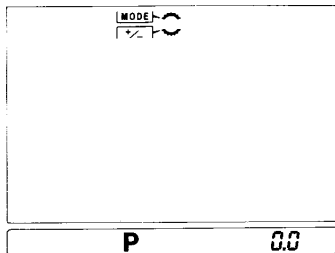
スポット測光での撮影

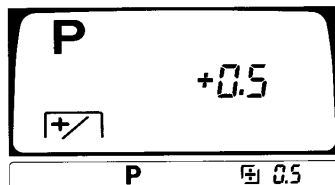
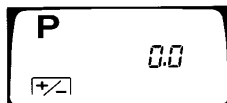
露出を合わせたいものが画面の中央にある場合、スポット測光フレームを露出を合わせたいものに重ねて、撮影します。露出を合わせたいものが画面の中央にない場合は、以下のようにして撮影してください。

1 スポット測光フレームを被写体がおおうようにし、AEロックボタンを押して、測光値を固定します。

2 AEロックボタンを押した(シャッターボタンを半押しした)まま、構図を決めます。

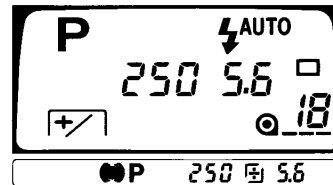
3 シャッターボタンを押し込んで撮影します。

露出補正

好みに応じて、画面全体を露出オーバーにしたり、露出アンダーにするときに露出補正を使います。

1 ファンクションボタンを1回押します。

● 図のような表示になり設定状態になったことをお知らせします。

2 後ダイヤルを回して、希望の補正値を表示させます。

● 設定できる補正値の範囲は、+4.0〜−4.0 0.5ステップごとです。

● +は露出がオーバーに、−は露出がアンダーになります。

3 シャッターボタンを半押しし、設定を終了します。

● 4秒間操作しないと、自動的に設定を終了します。

● 撮影中はボディ表示部とスクリーン外表示部が図のように、露出補正中であることをお知らせします。

● フラッシュ撮影時も露出補正できます。

● 撮影モードがMモードの場合、設定した露出補正値だけメータードマニュアル表示も補正されます。

● プログラムセットボタンを押すと、補正値は±0になります。

AEロック撮影

シャッターボタンを半押しにすると、ピントを固定すると同時に、露出も固定しピントを合わせたものが常に適正露出になります。
しかし、ピントを合わせたものと適正露出にしたものが異なる場合、あるいは露出を一定にしたまま連続撮影をする場合などは、AEロック撮影をしてください。
AEとはAuto Exposureの略で、自動露出のことです。

1　**適正露出にしたいものにピントを合わせます。**

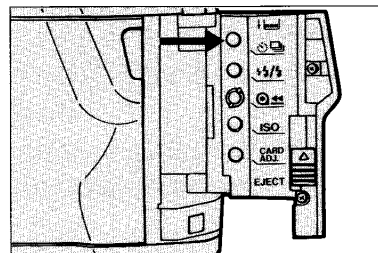
2　**AEロックボタンを押します。**
- スクリーン外表示部のAELが点灯し、測光値を固定したことをお知らせします。

3　**AEロックボタンを押したまま、ピントを合わせたい被写体にピントを合わせ直し撮影します。**
- 同じ露出で連続的に撮影する場合は、AEロックボタンを押し続けてください。

- AEロックボタンを押している間も、前ダイヤルまたは後ダイヤルを回して同じ露出のままシャッター速度と絞り値の組み合わせを変更することができます。

1コマ/連続撮影

このカメラは、シャッターボタンを押すごとに1コマずつ撮影する1コマ撮影と、シャッターボタンを押している間、連続して撮影する連続撮影とが選べます。
連続撮影には1秒間に4コマ撮影できる連続撮影Hと、1秒間に2コマ撮影する連続撮影Lがあります。
各々の選択は以下のようにします。

1　**カードホルダーを開けます。**

2　**巻き上げモード/セルフタイマーボタンを押し、希望のモードを選びます。**
- ボタンを押すたびに、ボディ表示部の表示が上図のように変わります。

- 連続撮影中は、パワーズームできません。
- イメージサイズロックやアドバンスプログラムズーム（83ページ参照）を使って連続撮影する場合は連続撮影Lに設定して下さい。連続撮影Hでは、最初の1コマしか撮影できません。

オートズームついて

このカメラとAFズームXiレンズを組み合わせると、以下のような新たなズーム機能が使用できます。

● オートスタンバイズーム(ASZ)
● イメージサイズロック
● ワイドビューファインダー

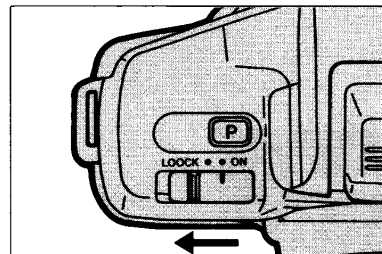
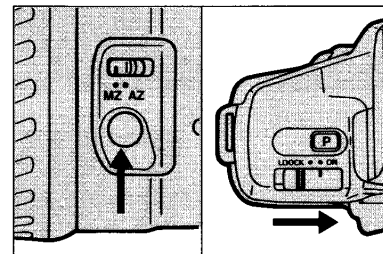
また上記の組み合わせに、一部のインテリジェントカードを組み合わせると、アドバンスプログラムズーム(APZ)が使用できます。

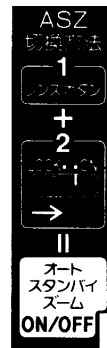
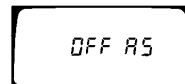
オートスタンバイズーム(ASZ)

カメラを構えたときに撮影距離に合わせて、被写体が適当な大きさに写るように自動的にズーミングします。この機能をオートスタンバイズーム(ASZ)と呼びます。

● ASZが作動した後も、パワーズームすることができます。
● パワーズームすると、カメラを構えるのを止めてから30秒間はASZが作動しません。
● パワーズームしない場合は、撮影距離が変わると再度ASZが作動します。

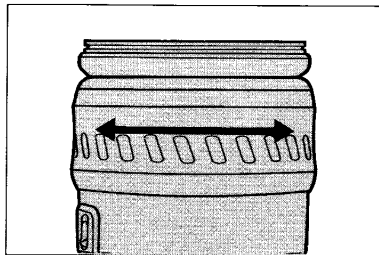
ASZを解除したいときは、以下の操作をしてください。

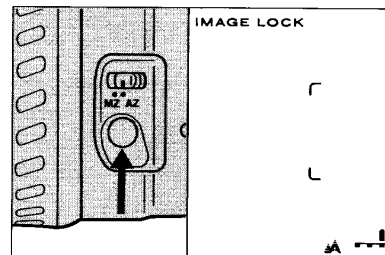
ASZの解除

1 メインスイッチをLOCKにします。

2 レンズボタンを押しながら、メインスイッチをONにします。

● ボディ表示部に"OFF AS"と表示されます。
● 再度同じ操作をすると、再びASZが働き、ボディ表示部に"ON AS"と表示されます。

● カードホルダー内のシール(左図)に、上記の解除操作を簡略化して示しています。

イメージサイズロック

近づいてくる被写体、あるいは遠ざかる被写体をほぼ同じ大きさ(撮影倍率)で写るように、レンズが自動的にズーミングします。この機能をイメージサイズロックと呼びます。

操作方法

1 操作リングを回し、被写体の大きさ(撮影倍率)を決めます。

● できるだけ大きさを一定に撮りたい場合は連続撮影Lにしてください。

2 レンズ横のレンズボタンを押します。

● ファインダースクリーンに"IMAGE LOCK"と表示され、被写体の大きさが固定されます。

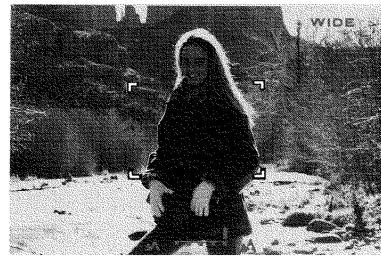
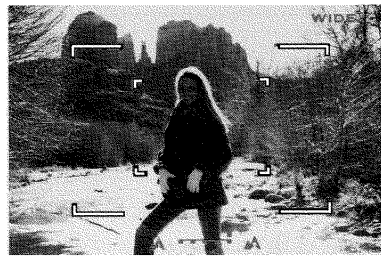
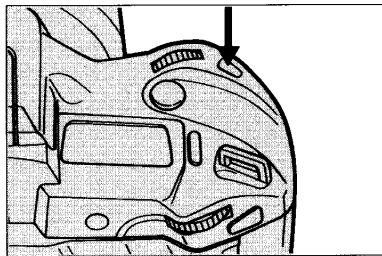
3 レンズボタンを押しながら撮影します。

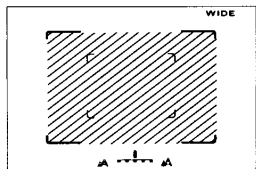
● 撮影後も、レンズボタンを押している間は、被写体の大きさは固定され続けます。
● イメージサイズロックは、レンズボタンから指を離すと解除されます。

被写体の動きが速すぎるときや、イメージサイズロック中にレンズがワイド端まで動いてしまうと、被写体の大きさを一定に保つことができません。
以下のような場合は、イメージサイズロックできないことがあります。このときは、"IMAGE LOCK"が点滅します。

● 被写体が小さいまたは遠い
● オートフォーカスでピントが合わない被写体
● 焦点距離が50㎜より短くなっているとき

ワイドビューファインダー

撮影する画面の周囲を確認することができます。
たとえば、人の多いところで撮影する場合、ファインダーをワイドにしておいて構図を決めると、カメラと被写体の間を横切る人やものを確認することができますので、失敗を防ぐことができます。

1 ワイドビューファインダーボタンを押します。

● レンズがワイド側にズーミングします。
● ファインダースクリーンに"WIDE"と表示されワイドビューファインダーの状態になったことをお知らせします。またフォーカスエリアはワイドフォーカスエリアになります。
● 再度ワイドビューファインダーボタンを押すと、通常のファインダー状態に戻ります。
● 撮影画面枠内(斜線部)のものが写ります。

2 撮影画枠の周囲に注意しながら、ズーミングして、希望の画角をセットします。

3 シャッターボタンを半押しして、写る範囲と露出値を確認します。

● レンズがテレ側にズーミングし、通常のファインダー状態に戻ります。

● シャッターボタンを半押ししている間は、全範囲ズーミングができます。

● パノラマアダプター(別販売)を使って、パノラマ撮影しているときは、ワイドビューファインダーにできません。

4 シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● シャッターボタンから指を離すと、レンズがワイド側にズーミングします。

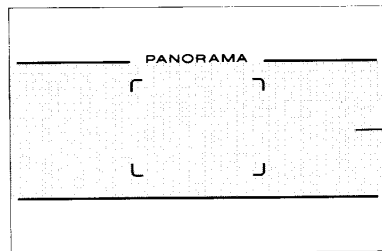
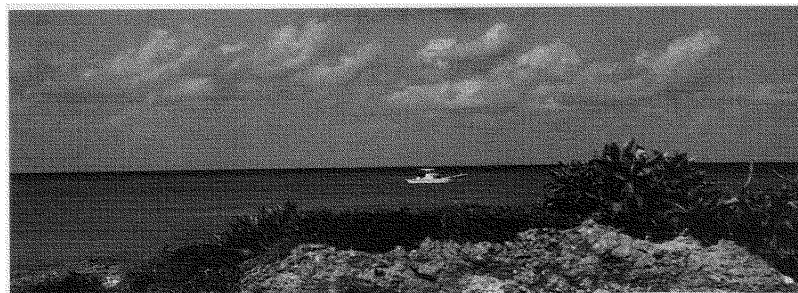
アドバンスプログラムズーム(APZ)

子供カード(91年内発売予定)を使用すると、被写体の動きに合わせて、被写体が最適な大きさに写るように、自動的にズーミングし続けます。この機能をアドバンスプログラムズームと呼びます。
詳しくはインテリジェントカードの使用説明書をご覧ください。

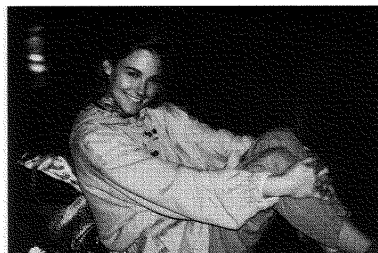
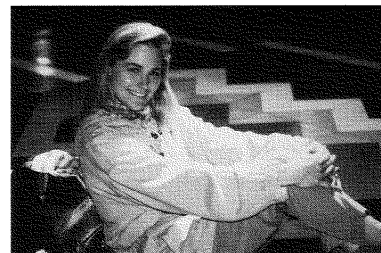
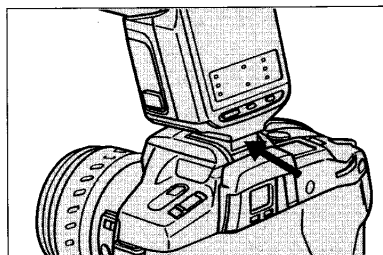
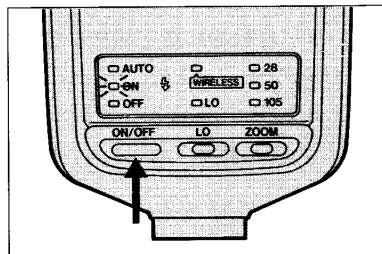
アクセサリーを使って

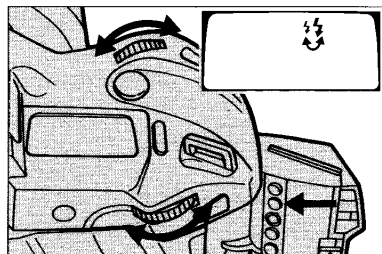
このカメラは、他のアクセサリー(別販売)と組み合わせると、カメラだけではできないさまざまな機能が使えます。
ここでは、これらの機能とその操作方法を解説しています。
アクセサリーの使用説明書とあわせてお読みください。

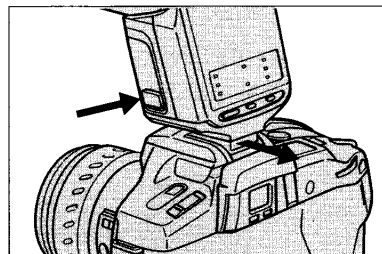
パノラマ撮影

パノラマアダプターセット(別販売)をこのカメラに取り付けると、このパノラマ写真を気軽に楽しむことができます。通常の撮影はフイルム面上で縦24mm横36mmに写りますが、このアダプターを取り付けると、縦13mm横36mmに写ります。プリントの大きさは、縦90mm×横250mmまたは縦127mm×横353mmになります。
パノラマアダプターを取り付け、ゼロタイムオートがはたらいたとき、またはシャッターボタンを半押しすると、ファインダースクリーンにパノラマフレームが表示されます。

●パノラマ撮影をする場合、ワイドビューファインダーはできません。

ワイヤレスフラッシュ

プログラムフラッシュ3500Xiとこのカメラを組み合わせると、オフカメラ用アクセサリーコードを使わずに手軽にオフカメラフラッシュ撮影ができます。もちろん、露出はカメラが自動的に適正露出になるように制御します。
オフカメラフラッシュとは、フラッシュをカメラから離して撮影することです。
オフカメラフラッシュ撮影をすると、被写体の正面から照明する通常のフラッシュ撮影とは違い、陰影を付けたり、逆に背景の強い影が出ないようにすることができます。

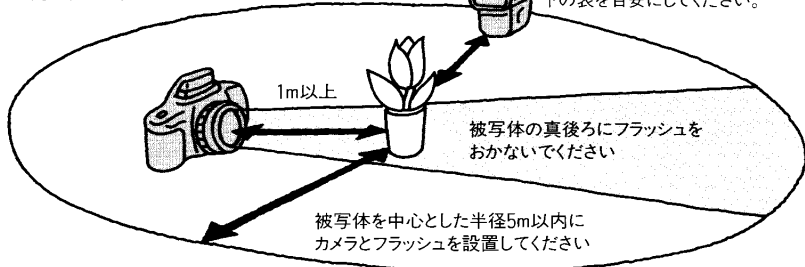
通常のフラッシュ撮影

ワイヤレスフラッシュ撮影

設定方法

1 フラッシュのオートロックフットを、カメラのオートロックアクセサリーシューに止まるまでしっかり差し込みます。

2 フラッシュの発光ON/OFFボタンを押して発光ONにします。

- 発光ON表示が点灯します。
- 発光OFFでも設定はできますが、フラッシュ背面の表示が点灯しません。

3 カメラのフラッシュモードをワイヤレスフラッシュに設定します（68ページ参照）。

- ボディ表示部の ϟϟ マークが交互に点滅し、ワイヤレスフラッシュに設定されたことをお知らせます。
- フラッシュ背面のワイヤレス表示が点灯します。

4 フラッシュをロック解除ボタンを押しながら、取り外します。

- フラッシュをカメラに装着していないときでも、上記操作をするとカメラはワイヤレスフラッシュの設定ができます。フラッシュだけでの設定は、フラッシュの発光を一度OFFにし、発光ON/OFFボタンを、ワイヤレスフラッシュランプが点灯するまで押し続けてください。
- 撮影会などで近くにワイヤレスフラッシュ撮影をしている人がいると、その人のフラッシュ光で発光してしまうことがあります。このような場合は、フラッシュ電池室内にあるチャンネル切り替えスイッチを同じチャンネルにならないように切り替えてください。
  スイッチを切り替えるときは、フラッシュをカメラに取り付けた状態で行なってください。
  このとき、フラッシュを取り外す前に一度カメラを構えて、ゼロタイムオートをはたらかせてください。

撮影方法

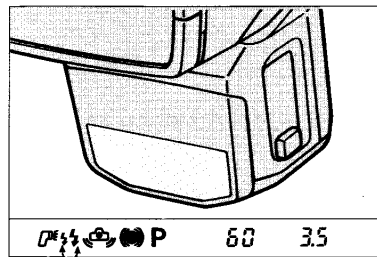
ワイヤレスフラッシュに設定すると、撮影モードがPモードのときも、フラッシュは自動発光でなく撮影ごとに必ず発光します。

1 カメラとフラッシュをワイヤレスフラッシュに設定します。

● シャッター速度は、P、Sモードでは1/60秒以下、Aモードでは1/60秒に設定されます。Mモードでは、1/60秒以下に設定してください。

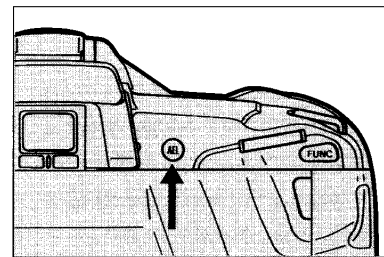
2 カメラ、フラッシュ、被写体を上図のように設置します。

ワイヤレスフラッシュの調光距離範囲について

ワイヤレスフラッシュ撮影時の調光距離(被写体とフラッシュの距離)は右の表を目安にしてください。

調光距離範囲(m)		
絞り値 \ フイルム感度	ISO100	ISO400
1.4	2.0~5.0	4.0~5.0
2.0	1.4~5.0	2.8~5.0
2.8	1.0~5.0	2.0~5.0
4.0	0.7~4.5	1.4~5.0
5.6	0.5~3.2	1.0~5.0
8.0	0.4~2.3	0.7~4.5
11.0	0.4~1.6	0.5~3.2

3 フラッシュとカメラ内蔵フラッシュの充電完了を確認します。

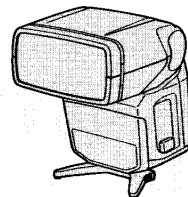
● フラッシュは背面の ϟ マークと前面のAF補助光発光部が点滅すると充電完了です。

● 内蔵フラッシュはスクリーン外表示部の ϟ が点灯すると充電完了です。

4 カメラのAEロックボタンを押してテスト発光します。

● フラッシュと内蔵フラッシュの両方が発光することを確認してください。

5 再度充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● 適正露出が得られると、スクリーン外表示部の ϟ マークが点滅します。

● プログラムフラッシュ3500Xiに付属のスタンドを取り付けると、フラッシュをテーブルなどの上に置くことができます。

スローシンクロ撮影

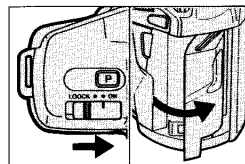
ワイヤレスフラッシュのときも、スローシンクロ撮影をすることができます。
テスト発光をした後、AEロックボタンを押したまま、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

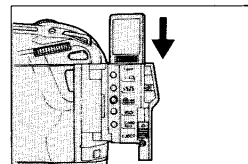
光量比制御撮影

カメラ内蔵フラッシュを照明光として使い、内蔵フラッシュとフラッシュの光量比を1対2にした光量比制御撮影もできます。
ワイヤレスフラッシュ撮影の状態で、カメラのフラッシュポップアップボタンを押しながら、シャッターボタンを押し込んで撮影してください。

インテリジェントカード

このカメラは、αiシリーズ同様にインテリジェントカードを使用することができます。インテリジェントカードとは、各種の撮影機能や、撮影ノウハウをプログラムした2×3cmの小さなカードです。撮影ノウハウを自動化したカードをフォトテクニックカードと呼び青い色がシンボルです。また撮影機能を広げるカードをスペックアップカードと呼び、赤い色がシンボルです。このカメラは、カスタムカード(α-8700i/α-7700i用)、A/Sモードカード(α-5700i用)を除くすべてのカードが使用できます。
くわしくはカードの使用説明書をご覧ください。

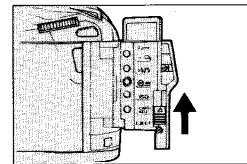
カードの入れ方

1 メインスイッチをONにします。

2 カードホルダーを開きます。

3 信号接点を手前にしてカードを入れます。

● ボディ表示部に CARD と表示されます。表示されない場合は、カードの向きを点検して下さい。

4 カードホルダーを閉じます。

● カードを入れた状態で、カードキーによって、カード機能を使うか使わないかを選択することができます。カード機能が働いているときは、ボディ表示に CARD と表示されます。

カードの取り出し方

1 カードホルダーを開けます。

2 カードイジェクトレバーを押し上げます。

アクセサリーについて

1.レンズ

ミノルタαレンズ以外のレンズ(MDやMCレンズなど)はご使用になれません。

焦点距離28mm未満の広角レンズ使用時および右表のレンズは、撮影距離によっては、フードを外していても内蔵フラッシュ光がケラレ*ることがあります。詳しくは、最寄りの当社サービスセンターまたはサービスステーションまでお問い合せください。

AFズーム28-85mm F3.5-4.5(マクロ付)
AFズーム28-135mm F4-4.5
AFアポテレ300mm F2.8
ハイスピードAFアポテレ300mm F2.8
AFズームXi35-200mm F4-5.6
AFアポテレ600mm F4
ハイスピードAFアポテレ600mm F4

*フラッシュ光がさえぎられて写真に照明ムラができること。

2.フラッシュ

- Xシリーズのフラッシュおよびそれ以前のフラッシュはご使用になれません。
- プログラムフラッシュ3200iや2000iなどのiシリーズフラッシュはそのままご使用になれます。プログラムフラッシュ5200iでマニュアル発光など設定をする場合は、カメラをフラッシュモードに合う撮影モードに設定してからフラッシュの設定をしてください。
- 4000AF、2800AF、1800AFなどのAFシリーズフラッシュをお使いになる場合はFS-1100(別販売)を使って取り付けてください。この場合、フラッシュのAF補助光は発光しません。各々の撮影モードでの詳細は以下のようになります。

  P(S)モード:フラッシュの電源スイッチをONにしてご使用ください。シャッター速度と絞り値が自動的にセットされ、フラッシュはTTLダイレクト測光により自動調光されます。なお自動発光は、行なわれません。

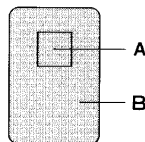
  Aモード:フラッシュの電源スイッチをONにしてご使用ください。シャッター速度1/200秒にセットされ、フラッシュは選んだ絞り値に応じてTTLダイレクト測光により自動調光されます。

  Mモード:フラッシュの電源スイッチをONにしてご使用ください。絞りとシャッター速度(1/200-30秒、buld)を自由に選んで撮影できます。フラッシュはTTLダイレクト測光により自動調光されます。

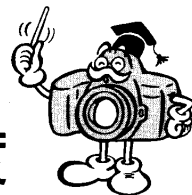
3.インテリジェントカード

インテリジェントカードを機能的に分類すると、フォトテクニックカード、スペックアップカード、カスタムカードの3種類に分けられ、その中でもカメラボディによって使用できるものとそうでないものがあります。お手持ちのカードがα-7Xiにご使用になれるかを、下表でご確認ください。

○:使用できます　－:使用できません

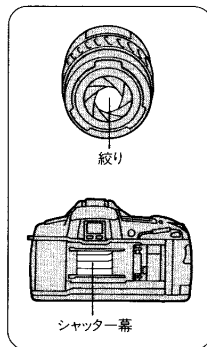
1:アップダウンレバーの代わりに、前ダイヤルで設定をしてください。
2:Mモードのときに絞り値を変えるブラケット撮影はできません。
3:シャッターボタンから指を離し、カメラを構えるのを止めたときに、ブラケット枚数と露出補正量が表示されます。
4:α-7Xiはプログラムシフト機能がないため、露出の基準値をシフトすることができません。
5:カード機能を働かせると、自動的にスポット測光になります。AEロックボタンで、露出値を記憶させます。
6:カード機能を働かせると、自動的にスポット測光になります。スポットボタンの代りに、AEロックボタンを押してください。

分類	A部の色	B部の色		7Xi
		シルバー	黒	
フォトテクニック	青	旅		○
		子供		○
			ポートレート	○
			記念撮影	○
			スポーツ	○
			クローズアップ	○
スペックアップ	赤	流し撮り		○
		インターバル		○
		背景描写制御		○
			多重露光	1
			オートブラケット	1,2
			フラッシュブラケット	1,3
			データメモリー	1
			ファンタジー	○
			オートシフト	1,4
			マルチスポット	5
			H/S	6
			A/S	－
	黄	カスタムXi		○
			カスタム	－

基本的な写真の知識

カメラとレンズの性質

【1】絞りとシャッター速度

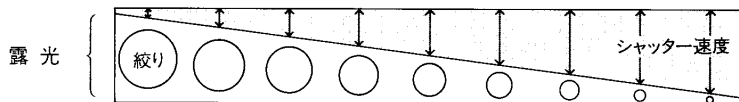
絞りとは、レンズの内部で数枚の羽根を組み合わせ、大きさが変えられる穴のことで、レンズを通る光を制限します。絞り値はこの穴の大きさ(絞り径と言います)を示す値のことで、F1.4、F2、F2.8、F4.....と数値が大きくなるほど、絞り径は小さくなります。レンズを通る光の量は、F2.8はF2の半分に、F2はF1.4の半分にと、半分ずつ変化します。

シャッターとは、フイルムのレンズ側にあり、レンズを通ってきた光をある時間だけフイルムにあてる(露光といいます)ものです。シャッター速度はこの光を通す時間のことで、1/8000秒、1/4000秒、1/2000秒.....と表して時間が短い場合をシャッター速度が速い、長い場合を遅いといいます。フイルムにあたる光の量は、シャッター速度が示すとおり2倍ずつになります。

【2】露光

フイルムにあたる光の量(露光量)は、絞り値とシャッター速度の組み合わせによって決まります。ある露出に対して、絞りとシャッター速度の組み合わせは一通りではありません。

たとえば、絞り値F11、シャッター速度1/125秒で適正露出が得られたとすると、同じ露出の得られる組み合わせは以下のようになります。

絞り値	2	2.8	4	5.6	8	11	16	22	32
シャッター速度	1/4000	1/2000	1/1000	1/500	1/250	1/125	1/60	1/30	1/15

露 光
絞り
シャッター速度

これらの組み合わせの中から、どの組み合わせを選ぶかは、描写に関係があります。

絞り値、シャッター速度は次に示すようなそれぞれの効果があり、どのようにその効果を表すか(描写)が、組み合わせの選択に関わってきます。

【3】絞りとシャッター速度の効果

絞りの効果は、背景の描写に大きく関わります。絞りが大きくなる(.....F2、F1.4など数値が小さくなる)と背景がボケてピントの合っているもの(被写体)がくっきりと浮き立ちます。絞りが小さく(.....F22、F32など数値が大きくなる)なると、背景までピントが合い被写体と背景の両方をくっきりと描写することができます。

シャッター速度は被写体の動きの描写に大きく関わります。ある一定の速度で動いている被写体を写す場合シャッター速度が速ければ被写体は止まって、遅ければ尾を引くように写されます。

このカメラのイメージインジケーターは、このような絞りとシャッター速度の組み合わせがもたらす描写を確認できるようにしたものです。

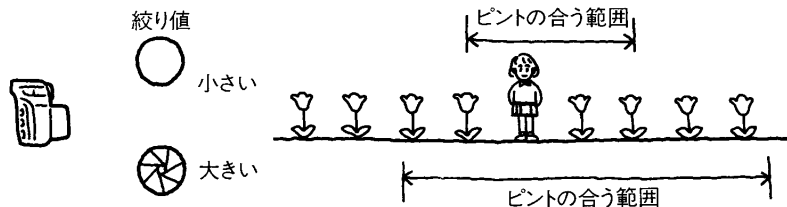
【4】被写界深度

被写体にピントを合わせると、その被写体の前後のある範囲にピントが合い、その範囲から離れるにしたがってボケていきます。このピントの合う範囲を被写界深度といい、範囲が広い場合を被写界深度が深い、狭い場合を浅いと表現します。

この被写界深度は、次のような性質があります。

1.絞り値が一定の場合、焦点距離が長くなるほど被写界深度は浅くなります。
2.焦点距離が一定の場合、絞り値が小さくなるほど被写界深度は浅くなります。
3.絞り値と焦点距離が一定なら、被写体の距離が近いほど浅くなります。
4.ピントを合わせた被写体中心に、カメラ側には浅くなります。

その他

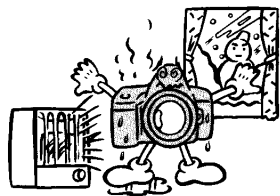
故障かな?……と考える前に

なにか異常が発生した場合は、下記のことをご確認ください。それでも不具合が続く場合は、最寄りの当社サービスステーションまたはサービスセンターにお問い合わせください。サービスステーション、サービスセンターの所在地、電話番号は本書裏面をご覧ください。

症状	点検項目	処置	ページ
表示が出ない	電池の容量はありますか?	新しい電池と交換してください	11
	電池の向きが間違っていませんか?	表示に従って正しく入れてください	11
絞り値が−−になる	レンズは正しく取り付けられていますか?	カチッとロックがかかるまで回して取り付けてください	13
	カメラまたはレンズの信号接点が汚れていませんか?	清潔な乾いた布で清掃してください	−
	AZ/MZスイッチがMZになっていませんか?	AZにしてください	−
パワーズームが作動しない	AZ/MZスイッチがMZになっていませんか?	AZにしてください	26
HELP表示が出る	フイルムの巻き上げ、巻き戻しに異常が出ています	電池を一度取り出し、入れ直してください	−
オートフォーカスが作動しない	ファインダースクリーンにM. FOCUS表示されていませんか?	フォーカスモードスイッチを一度押し下げ、オートフォーカスに切り替えてください	43
	レンズが正しく取り付けられていますか?	カチッとロックがかかるまで回して取り付けてください	13

症状	点検項目	処置	ページ
ピントが合いにくい	オートフォーカスの苦手な被写体にピントを合わそうとしていませんか?	AFズームXiレンズはパワーフォーカスで、他のαレンズはマニュアルフォーカスでピント合わせをしてください	43
フラッシュ撮影した写真の下の方が暗く写る	レンズフードを付けたまま撮影しませんでしたか?	フラッシュ撮影の際は、レンズフードを外してください	48
フラッシュ撮影した写真の画面全体が暗く写る	被写体との距離が遠すぎませんでしたか?	被写体との距離に注意して撮影してください	54
フラッシュが発光しない	Pモード:ボディ表示部の⚡AUTOが消えていませんか?	フラッシュモードボタンで⚡AUTOか⚡⚡AUTOを選んでください	68
	ASMモード:フラッシュを押し下げていませんか?	フラッシュポップアップボタンを押して、フラッシュを上げてください	53 56 59
フラッシュ撮影でピントが合わない	被写体との距離が遠すぎませんでしたか?	AF補助光の届く距離で撮影してください	27
	反射率の低い被写体ではありませんか?	ほぼ同等の距離にあるものでフォーカスロックしてください	40
撮影モードがPモードのまま変更できない	ボディ表示部にCARDと表示されていませんか?	カードキーを押して、カード機能をOFFにしてください	92

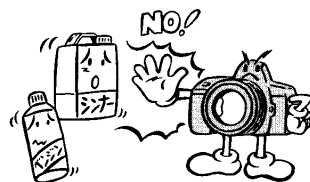
取り扱い上の注意

●カメラは精密機械です。取り扱いにはご注意ください。

●このカメラの温度が−20℃〜50℃の範囲で使用することができます。なお、クォーツデータバックは、0〜50℃の範囲で使用することができます。0℃以下では写し込めないことがあります。

●液晶の特性で低温下で表示反応がやや遅くなったり、60℃ぐらいの高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。

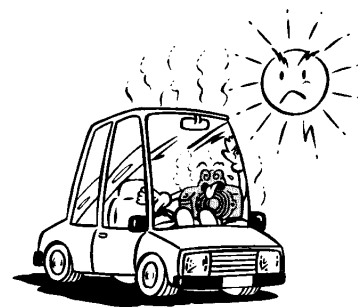
●カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。例えば、スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い室外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後、室内に持ち込み、周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。

●このカメラは防水構造になっていません。万一水にぬれたときは、乾いた布で水をふき取りすみやかに本書裏面に記載の当社サービスセンターまたはサービスステーションにお持ちください。

●カメラボディを清掃するときは、柔らかいきれいな布で軽く拭いてください。とくに海辺で使った後は、真水を少量浸した布で塩分をふき取り乾いた布でよくふき取って乾かしてください。シンナー、ベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは使わないでください。

●レンズやフイルム室内を清掃するときは、ブロアーでほこりを除き、柔らかいきれいな布で拭き取ってください。汚れがひどい場合は、当社サービスセンター、サービスステーションにお持ちください。

●ご自分で分解しないでください。

●カメラを保管するときは、カメラケースを外し風通しの良いところを選んでください。防虫剤の入ったタンスなどは、避けてください。湿気の多い時期には、ポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れるとより安全です。長時間使用しない場合は、カビがはえたり、故障の原因になりますので、ときどきシャッターを切るようにし、使用前には整備点検されることをおすすめします。

●直射日光下の車の中などは、極度の高温になり、カメラの故障の原因になりますので放置しないでください。

● 空港の手荷物検査は、X線を照射して行なわれます。フイルムがカメラの中に入っているときは、X線でフイルムが感光することがあります。検査官にフイルムの入ったカメラであることを伝えて、X線の照射を避けてください。

アフターサービスについて

1. 本製品の補修用性能部品は、生産終了後10年間を目安に保有しています。
2. アフターサービスについては、「アフターサービスのご案内」に詳しく記載していますので、ご覧ください。

電池に関する注意（リチウム電池の場合）

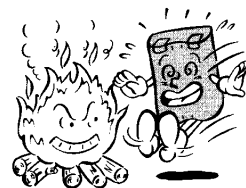
● リチウム電池は低温下の温度特性にも優れています。0°C以下ではやや電池特性が低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラや予備の電池を保温しながら撮影してください。なお、低温のため性能低下した電池でも常温に戻せば性能は回復します。

● 長時間使用しないときは、電池を抜き取って保管してください。

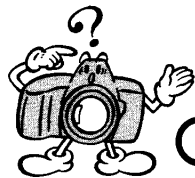
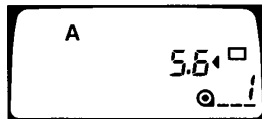
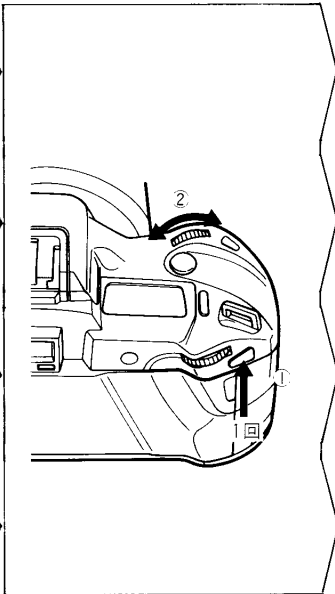
● コイン型電池は幼児の手の届かないところへ保管してください。万一飲み込んだときは、直ちに医師にご相談ください。

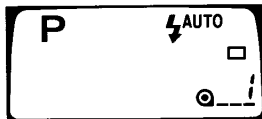
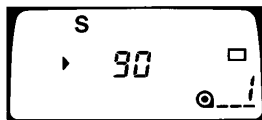
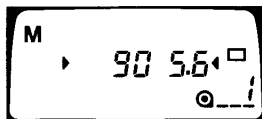
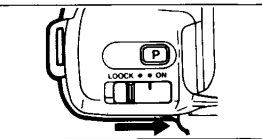
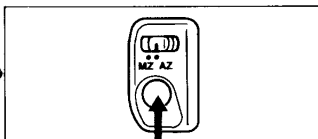
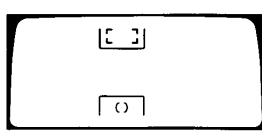
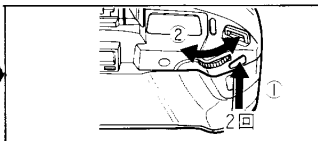
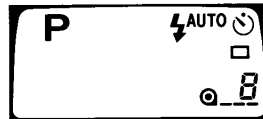
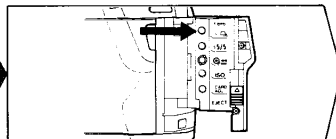
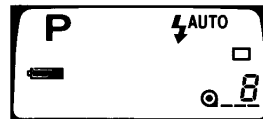
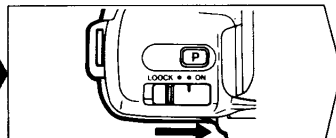
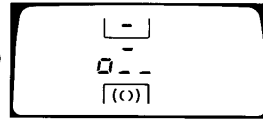
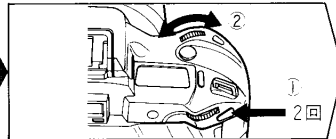
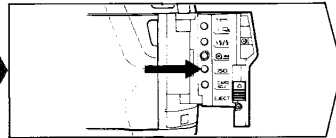
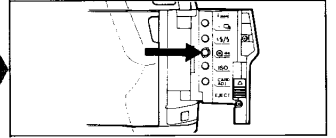
● 電池製造後の経過期間により、新品電池でも撮影可能本数が、性能表と異なる場合があります。また長時間の旅行や、寒いところで撮影するときは、予備の電池をご用意ください。

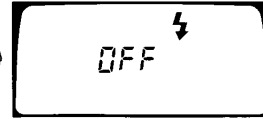
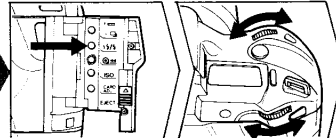
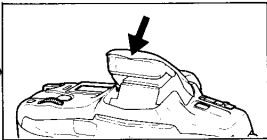
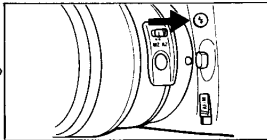
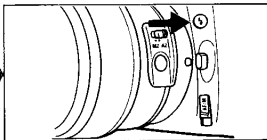
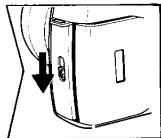
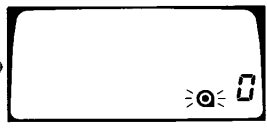
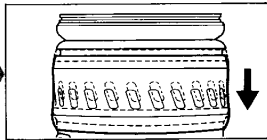
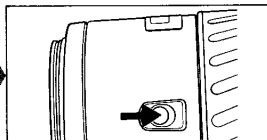
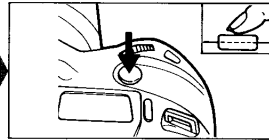
● 電池は火の中に投入したり、ショート、分解、充電は絶対にしないでください。破裂、発火のおそれがあります。

主な性能

項目	内容
カメラタイプ	マイクロコンピュータ制御フラッシュ内蔵35mmAE一眼レフオートフォーカスカメラ
使用フイルム	パトローネ入り35mmフイルム(135型)画面サイズ:24×36mm　ISO6～6400(1/3EVステップ)　フラッシュ使用時はISO25～1000
フイルム感度設定	DXコード付フイルム使用時、フイルム感度自動設定　マニュアル設定可能
レンズマウント	ミノルタAマウント
使用レンズ	ミノルタαレンズ
オートフォーカス方式	方式:TTL位相差検出方式多点測距　検出素子:CCDラインセンサー(4センサー2次元配置)　検出範囲:EV-1～19(ISO100)　AF制御自動切り替え　マルチ動体予測フォーカス制御　4コマ/秒連続撮影にAF追随　ワイドフォーカスエリア(4つのローカルフォーカスエリアを選択可能)　マニュアルフォーカス可能　フォーカスロック可能
オートズーム	AFズームXiレンズ使用時　オートスタンバイズーム　イメージサイズロック　ワイドビューファインダー　アドバンスプログラムズーム(子供カード使用時)
AF補助光	内蔵　低輝度・低コントラスト時自動発光　専用フラッシュ装着時も必要に応じてボディ内蔵AF補助光発光　測距可能範囲:約0.7～9m
撮影方式	プログラムAE(Pモード　エキスパートプログラム　イメージシフト可能)　絞り優先AE(Aモード)　シャッター速度優先AE(Sモード)　マニュアル(Mモード)・Mモード以外はイメージインジケーターを表示
測光方式	TTL開放測光　多分割測光(測光値ファジイ演算)　スポット測光　専用フラッシュ使用時はTTLダイレクト測光　受光素子:14分割ハニカムパターンシリコンフォトセル　測光範囲:EV0(スポット測光時EV3)～20(ISO100・F1.4レンズ使用時)　AEロックボタンによるAEロック可能　露出補正可能±4EV　1/2ステップ)
シャッター	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター　シャッター速度:1/8000～30秒(P/Aモードは無段階　S/Mモードは1/2段単位)・バルブ(露出時間は電池容量により制限)　フラッシュ同調速度1/200秒より長秒時
内蔵フラッシュ	ガイドナンバー:12(ISO100.m)　照射角:焦点距離28mmをカバー　充電時間:2秒(カメラと電源を共用)　赤目軽減用プリ発光可能　専用フラッシュ装着時　内蔵フラッシュ自動OFF　ワイヤレスフラッシュ対応
フラッシュ撮影方式	Pモード:必要時フラッシュ自動発光(アドバンスオートフィルインによる日中シンクロ)・スローシンクロ(1/200～30秒)可能　強制発光/発光禁止選択可能　Aモード:1/200秒自動設定・スローシンクロ(1/200～30秒)可能　Sモード:1/200～30秒・スローシンクロ(1/200～30秒)可能　Mモード:1/200～30秒手動設定

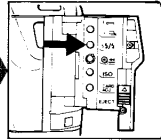
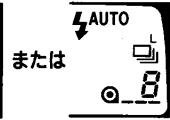
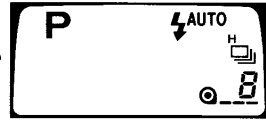
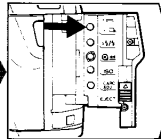
項目	内容
ボディ表示	撮影モード表示・フイルムマーク・パトローネマーク・バッテリー表示・フラッシュモード表示・セルフタイマーマーク・ISO感度表示・シャッター速度/フイルム感度/ローカルフォーカスエリア表示・絞り値/露出補正値・カードマーク・フイルムカウンター・ファンクション表示(巻き上げモード・フォーカスエリア・測光方式・露出補正)
ファインダー表示	ファインダースクリーン:イメージインジケーター・ファンクション表示(ファンクション1:撮影モード/露出補正・ファンクション2:フォーカスエリア/測光方式・フォーカスフレーム(ワイドフォーカスフレーム縦位置/横位置・ローカルフォーカスフレーム)・スポット測光エリア・パノラマフレーム・マニュアルフォーカス表示・イメージサイズロック表示 スクリーン外表示部:フラッシュ撮影表示・フラッシュ充電完了/発光モード/調光確認表示・手ぶれ表示・フォーカス表示・撮影モード表示・シャッター速度/フイルム感度表示・メータードマニュアル表示・露出補正表示・絞り値/露出補正表示・AEロックマーク
ファインダー	透過型液晶表示付き全面アキュートマット　視野率:縦92%×横94%　倍率:0.75倍(50mmレンズ、∞位置)　視度:−1diopt.　ハイアイポイント(接眼枠より19mm)
フイルム給送	オートローディング(1コマ目まで自動送り)　1コマ撮影/連続撮影(最高4コマ、2コマ/秒)切り替え可能　オートリターン(24枚撮りフイルムを約6秒で巻き戻し 巻き戻し自動停止)　途中巻き戻し可能
プログラムセットボタン	Pモード・オートフォーカスモード・ワイドフォーカスエリア・14分割ハニカムパターン測光・1コマ撮影・露出補正±0・フラッシュ発光オートAUTO ONに設定(カスタムカードXiにて変更可能)
カードシステム	フォトテクニックカード・スペックアップカード・カスタムXiカード(いずれも別販売)に対応
その他の機能	セルフタイマー(作動時間10秒 途中解除可能)　オートロックアクセサリーシュー　アイピースカップ　リモートレリーズターミナル　日付・時間写し込み可能　パノラマアダプター(別販売)装着を自動検知しパノラマフレームを表示
使用電池	6Vパックリチウム電池(2CR5)1個　メインスイッチON時に自動容量チェック(4段階表示)　CR2025電池1個(クォーツデート用)
撮影可能本数	フラッシュなし:約50本　フラッシュ使用率50%:約25本　(いずれも24枚撮りフイルム)
大きさ・重さ	163(幅)×100(高さ)×67(奥行き)mm　665g(電池別、クォーツデート用電池含む)

本書に記載の性能および外観は、都合により予告無く変更することがあります。
また記載の数値は当社試験条件によるものです。

○○○したいときは…

Aモードにしたい

Pモードにしたい

Sモードにしたい

Mモードにしたい

ASZを解除したい

スポット測光にしたい

セルフタイマー撮影をしたい

電池の容量を確認したい

フォーカスエリアを変えたい

フィルム感度を確認したい

フィルムを巻き戻したい

フラッシュ発光を禁止したい
（Pモードのとき）

OFF

フラッシュ発光を禁止したい
（ASMモードのとき）

フラッシュを発光させたい
（Pモードのとき）

フラッシュを発光させたい
（ASMモードのとき）

フィルムを出したい

ピントを固定させたい
（Xiレンズのとき）

ピントを固定させたい
（AFレンズのとき）

プリ発光にしたい

連続撮影にしたい

または

レンズを外したい

露出補正したい

露出だけを固定させたい